

令和5年度

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

地方公共団体名

石川県

1. 事業の具体的内容について

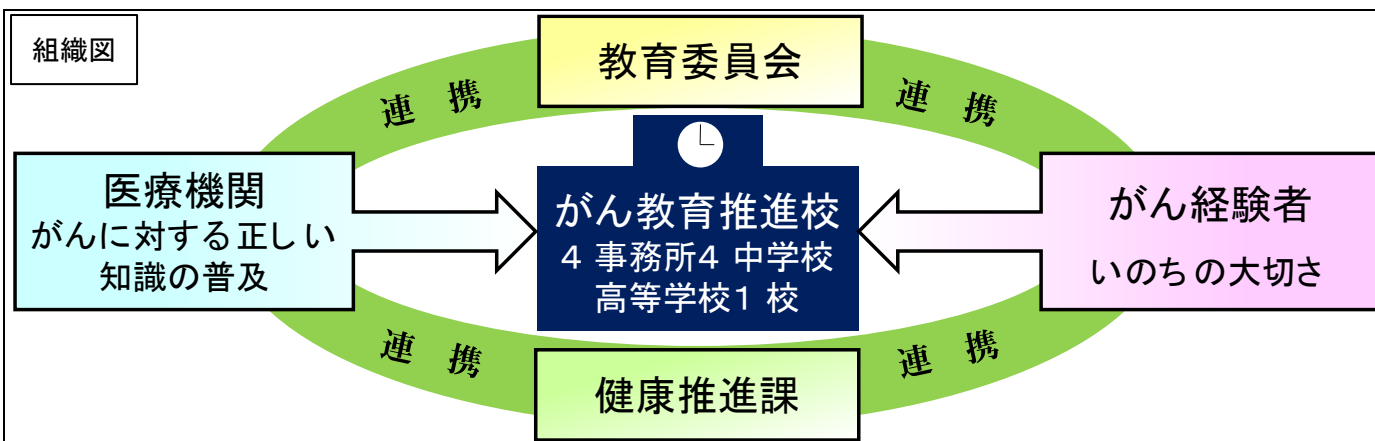
(1) 自治体における取組

① 協議会について

(ア) 推進委員（計15名）

所 属	職 名	氏 名
石川県済生会金沢病院	副 院 長	龍 澤 泰 彦
公立松任石川中央病院	外科部長	石 井 要
金沢大学附属病院	輸血部長	山 崎 宏 人
萌の会	代 表	和 田 真由美
がん安心生活サポートハウス つどい場 はなうめ	ピアサポーター	久 田 充 子
小松市立芦城中学校	教 諭	西 田 昌 史
金沢市立額中学校	指導教諭	北 恵 子
宝達志水町立宝達中学校	教 諭	三 嶋 惇 也
珠洲市立緑丘中学校	教 諭	岡 田 寛 輝
石川県立輪島高等学校	教 諭	山 下 友 子
石川県健康福祉部健康推進課	技 師	塩 田 佳 穂
石川県教育委員会事務局保健体育課	課 長	瀬 戸 博 邦
	課長補佐	松 本 浩 和
	指導主事	田 中 佳 代
	指導主事	丹 内 周 子

組織図



(イ) 開催時期、検討内容

- 第1回連絡協議会（於：県庁） 8月2日
 - ・事業趣旨の共通理解及びがん教育の推進に向けた計画の確認、日程調整等
- 推進協議会（於：各推進校）10・11月
 - ・がんの教育に関する保健教育等の指導案作成
 - ・研究授業の日程及び概要について打合せ
 - ※学校の実情や生徒の実態等の外部講師との共有とそれに即した指導案検討の実施
 - ※推進校と講師によるメール・WEB会議システム等を活用した打合せの確認
- 「がん教育講習会」（オンデマンド開催及び資料掲載）1月18日～3月12日
 - ・がん教育の推進に向けた行政説明・推進校の実践報告
 - ・中央講師によるがん教育についての講演
- 第2回連絡協議会（於：県庁）1月22日 ⇒災害のため中止（紙面開催）
 - ・推進校からの実践報告及び県教委で取りまとめた報告等の実施
 - ・次年度の取組、がん教育の推進（外部講師活用等）の検討

② 教育委員会としての取組

- ・第1・2回連絡協議会の設定（事業についての説明・年間計画の確認、成果報告と次年度に向けて）
- ・推進校の選定・・・中学校4校、高等学校1校
- ・外部講師の派遣（専門医等3名、がん経験者2名）
- ・推進委員の各種研修への派遣
- ・学習指導案の検討
- ・「がん教育講習会」の開催（オンデマンド開催）1月18日～3月12日
解説「学校におけるがん教育の推進について」
講演「学校におけるがん教育」北里大学 医学部 佐々木 治一郎 氏
各推進校による実践報告書及び学習指導案（紙面紹介）

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

関係機関等との連携により、外部講師を招聘し、学校におけるがん教育の推進を図ることができた。健康福祉部健康推進課との連携により、外部講師の活用体制の整備・運用について検討することができた。

(2) モデル校における取組

① 小松市立芦城中学校の取組（研究授業実施日：令和5年11月14日（火））

- ・外部講師（がん専門医）を活用した授業実践
- ・テーマ：がんについての正しい知識を学び、がん患者と共に生きる社会について考える。
- ・教科：保健体育 保健分野（授業時数：4時間）
- ・内容：「生活習慣病などの予防（がんとその予防）」（4／4時）
がん専門医をお招きし、がん発症のメカニズムやその原因について学び、その予防方法について考えることをねらいとした授業を行った。がんの原因の一つとして、生活習慣等が影響していることについてグループで話し合うことで、自他の健康的な生活について考えを深めることができた。



② 金沢市立額中学校の取組（研究授業実施日：令和5年11月21日（火））

- ・外部講師（がん専門医）を活用した授業実践
- ・テーマ：がんの基本的知識を学び、自らの健康を適切に管理していく意識向上を目指す。
- ・教科：保健体育 保健分野（授業時数：4時間）
- ・内容：「生活習慣病などの予防（がんについて考える）」（4／4時）
外部講師としてがん専門医をお招きして授業を行った。「がんとはどのような病気なのか」を外部講師から説明を聞き、どこか他人事に感じていた「がん」に対し、誰にでも起こり得る病気であることを理解し、予防や早期発見・早期治療の必要性和自分の生活への意識向上につながった。



③ 宝達志水町立宝達中学校の取組（研究授業実施日：令和5年12月12日（火））

- ・外部講師（がん専門医）を活用した授業実践
- ・テーマ：がんの症状や要因を知り、予防するために自分ができることを考える。
- ・教科：保健体育 保健分野（授業時数：3時間）
- ・内容：「生活習慣病などの予防（がんの予防）」（3／3時）
外部講師としてがん専門医をお招きした。専門医によるお話から、がんについて正しく理解するとともに、決して不治の病ではなく回復可能な病気であること、そのための早期発見が大切であることから、検診の重要性に気づき、家族へのアドバイスを考え共有することで、さらに深い学びへとつなげることができた。



④ 珠洲市立緑丘中学校の取組（研究授業実施日：令和5年12月7日（木））

- ・外部講師（がん経験者）を活用した授業実践
- ・テーマ：「がん」と共に生きる社会で、幸せに暮らして行くには
- ・教科：保健体育 保健分野（授業時数：4時間）
- ・内容：「生活習慣病などの予防（がんについての正しい理解と主体的な生き方）」（4／4時）

外部講師としてがん経験者の方をお招きした。事前学習で出てきた生徒からの質問に対し、授業で回答していただいた。さらに、講師の方から「がん患者の生活へのイメージ」を問われると、実際の生活とのズレに気づくことができ、がんに対してより広い視野を持つことができた。



⑤ 県立輪島高等学校の取組（研究授業実施日：令和5年12月14日（木））

- ・外部講師（がん経験者）を活用した授業実践
- ・テーマ：がん検診の重要性について理解し、自分や身近な人の健康について考える。
- ・教科：保健体育 科目保健（授業時数：4時間）
- ・内容：「生活習慣病などの予防と回復」（2／4時）

外部講師としてがん経験者の方をお招きした。自分たちが住む能登北部のがん検診率の低さに着目させ、家族や身近な人の健康を守るために何ができるかを考えた。授業を行うにあたり、養護教諭や図書館司書とも連携し、がんの特設コーナーを作るなど、学校をあげてがんについて考えるきっかけを作ることができた。



2. 事業の達成度について

① 推進校における生徒アンケートより（対象：中・高校生約 360 名）

質問項目等		実施前	→	実施後
3)c	「日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。」 ※「そう思う」と回答	66.4%	→	78.0%
3)d	「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」 ※「そう思う」と回答	47.9%	→	66.8%
⇒ どちらの項目についても、事前・事後ともに「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答する生徒は 90%を超えており、生活習慣や検診についての意識は当初から高かったが、授業を通してさらに自分事として捉え、今後の健康な生活と関連付けて考えることができたと思われる。				
3)e	「がんになっても生活の質を高めることができる」 ※「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答	55.5%	→	71.5%
3)f	「がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う」 ※「そう思う」と回答	46.3%	→	65.5%
⇒ がん患者に対する正しい認識や共生の視点等について学んだことにより、がんになっても、自分らしく充実した生活をおくれるように、がんそのものに対する治療についてはもちろん、生活の質を改善する取り組みについて考えを深めることができた。また、そのことを家族など身近な人に伝える必要性を感じたと思われる。				

②研究授業参加者アンケートより（対象：管理職2名、教諭等5名、養護教諭等1名、その他2名）

	A	B	C	D
研究授業について	60.0%	40.0%		
授業整理会等について	60.0%	40.0%		

A：とても良かった、とても参考になった

B：良かった、参考になった

C：あまり良くなかった、あまり参考にならなかった

D：良くなかった、参考にならなかった

生徒たちは、がんに関する知識等について授業前からある程度有していたが、授業者による事前指導及び外部講師による科学的根拠に基づいた授業により、授業前より確実に知識の深化を図ることができた。また、今までがんに対して抱いていたイメージと、がん経験者の方から実際に聞いた話にズレがあることが分かり、「がん＝死」ではなく、自分の行動選択が未来につながるということを理解することができた。授業でのグループワークや外部講師との対話を通して、命の大切さや共生の視点等についても理解を深め、自他の生き方等について考えることができたと思われる。がん教育を通して、自他の健康について考えることによって、生活習慣病等について自分事として捉える意識は確実に深めることができたが、実際に行動変容に繋がるように、保健体育科を中心に養護教諭等、学校全体での取組として継続して行っていくことが必要である。

また、ICT機器を活用して他学年や他クラスと授業内容を共有するなど、外部講師をより効果的・効率的に活用する取組が工夫されるようになった。

推進校以外の先生方への普及については、本県開催の「がん教育講習会」をオンデマンド開催したことにより、保健体育科の教員のみならず、管理職や保健主事に対しても、中央講師による講演や本県指導主事による説明等を幅広く視聴していただけた。特に、今年度より小学校の先生方も対象に加え、さらに多くの先生方ががん教育について理解していただくと共に、興味関心や必要性和進め方について周知することができた。また、推進校による実践報告書等を保健体育課のホームページで紹介することで、さらに広く周知するとともに、各学校での取組の参考にしていただきたい。

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- 指導内容等の一層の啓発（外部講師を活用したがん教育について）
- 柔軟な授業実践（教科・対象・時間等の設定）
- 外部講師の効果的な活用（学校のニーズ、授業形態に合わせた外部講師の決定）
- 外部講師の育成（校種に合った指導内容等）
- WEB会議システムを活用した打合せや授業実践
- がん教育の取組の効果的な周知（保護者・一般）

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・外部講師の育成（オンデマンド研修等を通して授業実践に向けての共通理解を図る）
- ・外部講師の積極的・効果的な活用について（学校への周知）

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 連絡会について

1. 構成員 全員で 34人

- 【内訳】（委員）
- 学識経験者・・・大学教授等3人（社会医学、血液・腫瘍内科学、歯科口腔外科学）
 - がん関連団体・・・患者支援団体等4人
 - 医療関係者・・・医師会1人 歯科医師会1人 薬剤師会1人
看護協会1人 がん相談支援センター1人
検診機関1人 理学療法士会1人 作業療法士会1人 言語聴覚士会1人
 - 学校関係者・・・養護教諭代表1人 保健主事代表1人
小学校推進校2人 中学校推進校2人 高等学校推進校2人
 - 教育委員会・・・市町教育委員会2人 県教育事務所2人 学校保健技師1人
県保健体育課4人
 - 県知事部局・・・福祉保健部健康増進課1人

2. 開催時期、検討内容

	実施期日	内容等
第1回 がん教育推進連絡会	令和5年6月26日（月）	(1) 文部科学省がん教育等外部講師連携支援事業について (2) 山梨県がん教育等外部講師連携支援事業について (3) その他
第2回 がん教育推進連絡会	令和6年2月8日（木）	(1) 事業の取組報告 (2) がん教育推進校実践報告 (3) 事業の成果と課題について (4) その他

② 教育委員会としての取組

ア がん教育指導者研修会の開催

実施期日：令和6年1月23日（火）		対象：教職員、がん教育外部講師、がん教育推進連絡会委員	
講義		日本女子体育大学 体育学部 健康スポーツ学科 教授 助友 裕子 氏 「学校におけるがん教育の実際 ～カリキュラム・マネジメントをふまえた指導のあり方を中心に～」	
がん教育推進校 実践報告	小学校	笛吹市立石和南小学校	教諭 古屋 くるみ 氏
		【外部講師】 サンスマイルえがお	代表 清水 美智子 氏
	中学校	富士川町立増穂中学校	教諭 深澤 宏彰 氏
		【外部講師】 NPO 法人がんフォーラム山梨	代表 若尾 直子 氏
	高等学校	山梨県立甲府西高等学校	教諭 志村 美紀 氏
		【外部講師】 富士吉田市立病院 がん相談支援センター	がん看護専門看護師 小池 賀津江 氏

イ がん教育外部講師研修会の開催（オンライン・参集併用）

実施期日：令和5年7月18日（金）		対象：がん教育外部講師、がん教育推進校
講義	山梨大学大学院総合研究部 医学域社会医学講座 教授 山縣 然太郎 氏 「がんの基礎知識」 「外部講師の心得と児童生徒に学んでほしいこと」	NPO 法人 がんフォーラム山梨 理事長 若尾 直子 氏 「義務教育としてのがん教育 外部講師の役割」

ウ がん教育推進校における取組

- ・がん教育推進校（小学校1校・中学校1校・高等学校1校）を指定、授業公開及び授業検討会
- ・取組内容の詳細については、「（2）がん教育推進校における取組」に記載

エ がん教育に係る外部講師派遣事業（令和5年度 中学校4校・高等学校3校）

対象とする中学校・高等学校に、がん教育推進のための外部講師招聘に係る経費について補助

オ がん教育外部講師一覧表の更新・申請の手続き周知

カ 事業成果の普及

- ・山梨県教育委員会主催のがん教育研指導者研修会において、がん教育推進校による実践報告
- ・山梨県がん教育等外部講師連携支援事業報告書を作成し、各学校、関係機関等に配付
- ・がん教育リーフット（本県で作成）を修正・更新
- ・保健体育課ホームページにがん教育に関する情報を掲載

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・県がん対策推進協議会に出席し、支援事業における取組、学校の取組等について共有した。
- ・本県で作成しているがん教育リーフレット内の統計データについて、福祉保健部と連携しながら確認・更新した。

（2）がん教育推進校における取組

○がん教育授業準備会 令和5年9月13日（火）

	笛吹市立石和南小学校	富士川町立増穂中学校	山梨県立甲府西高等学校
期 日	令和5年10月17日（火）	令和5年11月10日（金）	令和5年11月8日（水）
公開方法	参集	参集	参集
公開授業	※学級担任と外部講師による TT 対象：6年1組 教科：特別活動（学級活動） 題材名：自分にできることについて考えよう 指導者：古屋 くるみ 外部講師：サンスマイルえがお 清水 美智子 氏	※学級担任と外部講師による TT ※外部講師による講演 対象：3学年 教科：道徳科 単元名：がんを体験して～中学生へのメッセージ～ 指導者：深澤 宏彰 外部講師：がんフォーラム山梨 若尾 直子 氏 寺田 秀昭 氏 堀内 玲子 氏	※学級担任と外部講師による TT ※10月30日外部講師による講演会（1学年対象） 対象：1年4組 教科：保健体育（科目保健） 題材名：がんとの共生 指導者：志村 美紀 外部講師：富士吉田市立病院 がん相談支援センター がん看護専門看護師 小池 賀津江 氏

がん教育 推進連絡会 委員	・NPO 法人がんフォーラム山梨 理事長 若尾 直子 寺田 秀昭 ・サンスマイルえがお 代表 清水 美智子 ・富士吉田市立病院 がん相談支援センター がん看護専門看護師 小池 賀津江 ・峡東教育事務所 指導主事 風間 謙 ・笛吹市教育委員会 指導主事 黒澤 宏至 ・山梨県養護教員研究会 会長 高鳥 隆子 ・保健体育課 課長 山田 芳樹 ・保健体育課指導主事 小沢 健司 ・事務局	・山梨大学 教授 山縣 然太郎 ・NPO 法人がんフォーラム山梨 理事長 若尾 直子 寺田 秀昭 堀内 玲子 ・富士吉田市立病院 がん相談支援センター がん看護専門看護師 小池 賀津江 ・山梨県厚生農業協同組合連合会 課長 志村 直樹 ・サンスマイルえがお 代表 清水 美智子 ・山梨県養護教員研究会 会長 高鳥 隆子 ・峡南教育事務所 指導主事 有泉 満 ・富士川町教育委員会 主幹 望月 芳能 ・保健体育課 課長 山田 芳樹 ・保健体育課指導主事 渡辺 健太郎 ・事務局	・山梨大学 教授 山縣 然太郎 ・NPO 法人がんフォーラム山梨 理事長 若尾 直子 ・富士吉田市立病院 がん相談支援センター がん看護専門看護師 小池 賀津江 ・山梨県厚生農業協同組合連合会 課長 志村 直樹 ・サンスマイルえがお 代表 清水 美智子 ・一般社団法人 山梨県作業療法士会 副会長 磯野 弘司 ・峡東教育事務所 指導主事 風間 謙 ・保健体育課 課長 山田 芳樹 ・保健体育課指導主事 穴水 史彦 ・事務局
---------------------	--	---	--

◇外部講師との連携について～がん教育推進校から～◇

- ・外部講師を活用することで、児童生徒は多様な視点で学びを深めることができた。
- ・外部講師との打ち合わせを綿密に行うことで、教員と外部講師の役割が明確になり、より効果的ながん教育につながった。
- ・児童生徒は確かな知識を得ることでがんへの理解が深まるとともに、身近にある健康課題だと気付くことができた。
- ・がんという病気の知識だけでなく、がんとの共生について実感したり、考えたりすることができた。

【課題】

- ・教員のがんについての知識や理解をより深める。教員の意識づくり、授業づくり
- ・継続的な外部講師との連携
- ・授業のねらいや内容に沿った外部講師の活用

2. 事業の達成度について

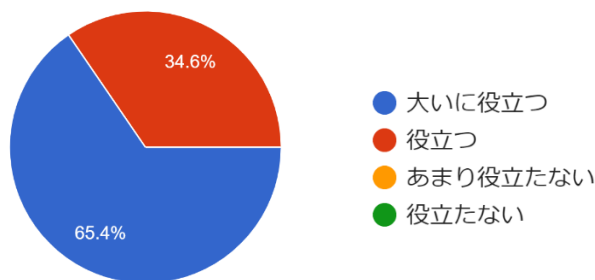
(1) がん教育推進連絡会の実施

がん教育推進連絡会において、学校におけるがん教育について意見を交換したり、成果や課題を共有したりした。終了時のアンケート結果では、「学校の取組に対して連絡会は十分に支援が行えた」と全員が回答した。「外部講師との連携により、がん教育が深まる」「がん教育をとらえて知識以上に人としての生き方、考え方に変化がある」といった御意見をいただいた。一方、本県で作成している「がん教育外部講師一覧表」の内容について、外部講師の講義・講演内容をより具体的に明記することで、学校が外部講師を依頼する際の参考となったり、それぞれの外部講師への理解が深まったりするのではないかと御意見や、一過性ではなく、系統性と継続性のある学習プログラムをつくってほしいとの御示唆をいただき、今後に生かしていきたい。

(2) がん教育指導者研修会の開催

参加者アンケートの結果

○研修会は、学校におけるがん教育の推進に役立つ内容だったか。



〈参加者の感想〉

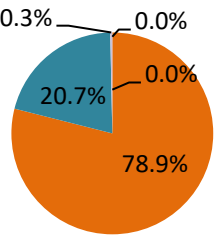
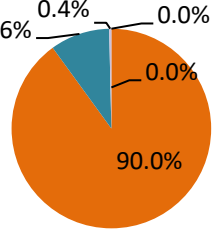
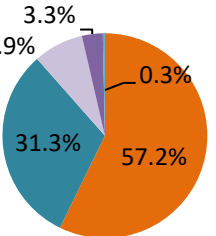
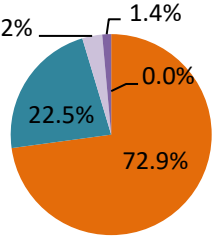
・がんの知識を身に付けるだけではなく、がんとの共生や自分の命、大切な人の命について考える機会にもなるのだと思った。発達段階や自校の課題、地域の特性を踏まえて、目標をしっかりと定め、外部講師と連携しながら進めることが大切である。外部講師を活用したがん教育を実施するに当たり、とても参考になった。

- ・具体的な実践を聞くことで、がん教育を進めるための視点を学ぶことができた。子供たちに身に付けさせたい力によって指導方法も変わっていくことを再確認できた。研修会后、所属校の教職員に研修内容を共有することから1歩を踏み出した。
- ・外部講師の言葉は子供たちに響き、がんへの正しい理解につながり、そして深まると感じた。発達段階に合わせ、どのようにがん教育を進めていけばよいのか他校の実践から学ぶことができたので、本校でも取り入れていきたい。
- ・がん教育はがんについての理解はもちろんであるが、命の大切さや自他の支え合いなど、とても重要な健康教育だと改めて思った。
- ・外部講師を活用したがん教育は効果的であるということがよくわかった。カリキュラム・マネジメントに基づき、組織的に指導していくことが理想だと強く感じた。
- ・外部講師、招聘料、時数の確保など様々な壁がある中で、助友先生の“アーリーアダプターの5人に”という言葉に少し背中を押されたように感じた。
- ・推進校の発表と外部講師の話を聞きながら、がんをとおした健康教育には、様々な場面で生かしていける学びがあると感じた。生命の尊さや自分を大切にすることを子供たちへ問うとき、「あのときの講師の方の話を思い出して」と子供たちの大切な引き出しの一つになると思った。『計画なくして実践なし』なので、全校で協力しながら取り組んでいきたい。
- ・本校では今年度、養護教諭と担任のTTでがん教育を行った。講義を聞いて、改めて子供たちががん患者の気持ちに寄り添うことや、命の大切さに気づく機会は大変だと感じた。来年度は、今年度の指導に加えて、外部講師（がん経験者など）の話を聴く機会をつくりたい。

(3) がん教育推進校における取組

【がん教育推進校（3校）におけるアンケート結果】

	授業実施前	授業実施後																				
日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う	<table><tr><td>■ そう思う</td><td>64.8%</td></tr><tr><td>■ どちらかといえばそう思う</td><td>31.6%</td></tr><tr><td>■ どちらかといえばそう思わない</td><td>3.6%</td></tr><tr><td>■ 思わない</td><td>0.0%</td></tr><tr><td>■ 無回答</td><td>0.0%</td></tr></table>	■ そう思う	64.8%	■ どちらかといえばそう思う	31.6%	■ どちらかといえばそう思わない	3.6%	■ 思わない	0.0%	■ 無回答	0.0%	<table><tr><td>■ そう思う</td><td>80.7%</td></tr><tr><td>■ どちらかといえばそう思う</td><td>18.2%</td></tr><tr><td>■ どちらかといえばそう思わない</td><td>0.7%</td></tr><tr><td>■ 思わない</td><td>0.4%</td></tr><tr><td>■ 無回答</td><td>0.0%</td></tr></table>	■ そう思う	80.7%	■ どちらかといえばそう思う	18.2%	■ どちらかといえばそう思わない	0.7%	■ 思わない	0.4%	■ 無回答	0.0%
■ そう思う	64.8%																					
■ どちらかといえばそう思う	31.6%																					
■ どちらかといえばそう思わない	3.6%																					
■ 思わない	0.0%																					
■ 無回答	0.0%																					
■ そう思う	80.7%																					
■ どちらかといえばそう思う	18.2%																					
■ どちらかといえばそう思わない	0.7%																					
■ 思わない	0.4%																					
■ 無回答	0.0%																					
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う	<table><tr><td>■ そう思う</td><td>62.5%</td></tr><tr><td>■ どちらかといえばそう思う</td><td>30.9%</td></tr><tr><td>■ どちらかといえばそう思わない</td><td>5.3%</td></tr><tr><td>■ 思わない</td><td>1.3%</td></tr><tr><td>■ 無回答</td><td>0.0%</td></tr></table>	■ そう思う	62.5%	■ どちらかといえばそう思う	30.9%	■ どちらかといえばそう思わない	5.3%	■ 思わない	1.3%	■ 無回答	0.0%	<table><tr><td>■ そう思う</td><td>78.6%</td></tr><tr><td>■ どちらかといえばそう思う</td><td>20.0%</td></tr><tr><td>■ どちらかといえばそう思わない</td><td>0.4%</td></tr><tr><td>■ 思わない</td><td>1.1%</td></tr><tr><td>■ 無回答</td><td>0.0%</td></tr></table>	■ そう思う	78.6%	■ どちらかといえばそう思う	20.0%	■ どちらかといえばそう思わない	0.4%	■ 思わない	1.1%	■ 無回答	0.0%
■ そう思う	62.5%																					
■ どちらかといえばそう思う	30.9%																					
■ どちらかといえばそう思わない	5.3%																					
■ 思わない	1.3%																					
■ 無回答	0.0%																					
■ そう思う	78.6%																					
■ どちらかといえばそう思う	20.0%																					
■ どちらかといえばそう思わない	0.4%																					
■ 思わない	1.1%																					
■ 無回答	0.0%																					

がんになっている人も過ごしやすい世の中になりたい	 0.3% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 20.7% 78.9% ■ そう思う ■ どちらかといえば そう思う ■ どちらかといえば そう思わない ■ 思わない ■ 無回答	 0.4% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 9.6% 90.0% ■ そう思う ■ どちらかといえば そう思う ■ どちらかといえば そう思わない ■ 思わない ■ 無回答
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う	 3.3% 7.9% 0.3% 0.0% 0.0% 31.3% 57.2% ■ そう思う ■ どちらかといえば そう思う ■ どちらかといえば そう思わない ■ 思わない ■ 無回答	 3.2% 1.4% 0.0% 0.0% 0.0% 22.5% 72.9% ■ そう思う ■ どちらかといえば そう思う ■ どちらかといえば そう思わない ■ 思わない ■ 無回答

がんについて主体的に考える児童生徒が増えたり、健康に対する意識が向上したりしている。また、がんとの共生についても考えていることが分かり、取組をととした児童生徒の変容が見られる。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・学校教育全体を通じた教科等横断的な視点でのがん教育（カリキュラム・マネジメント）の推進
- ・教員のがんについての知識や理解を深められるような研修や授業公開の実施及び実践事例の周知の継続
- ・がん教育指導者研修会の参加者について、養護教諭や保健主事などに偏らず、より広く様々な立場の教諭に参加してもらえよう工夫

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・外部講師を活用したがん教育の実施率を今後も伸ばしていくために、推進校の実践事例を積極的に周知
- ・外部講師を招聘できない場合などに活用できる映像教材の作成
- ・県が作成している外部講師一覧表や、外部講師の活用方法についての更なる周知

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員 15名

県医師会1名（内科医）、がん診療連携拠点病院1名（がん専門医）、大学教授2名、外部講師代表2名（呼吸器内科医、がん経験者）、県健康福祉部保健医療課1名、養護教諭2名、がん教育推進指定校授業者2名（高等学校保健体育科教諭、中学校保健体育科教諭）、県教育委員会体育健康課事務局4名

2. 開催時期、検討内容

■第1回推進協議会 【令和5年10月10日（火）岐阜県庁】

○令和5年度のがん教育推進の重点について

- ・がん教育の手引き及び実践動画資料の周知について
- ・がん教育推進指定校授業研修会兼指導者講習会の実施内容の確認
- ・外部講師リストの整備及び周知について

○学校におけるがん教育推進上の課題とその解決に向けて

- ・保健体育を柱とした各校におけるがん教育の計画的な推進
- ・外部講師の確保及び継続的な外部講師派遣システムの構築

■第2回推進協議会 【令和6年1月29日（金）岐阜県庁】

○令和5年度のがん教育推進の重点について（成果と課題）

- ・外部講師を活用したがん教育推進指定校からの報告
- ・モデル授業実施前後のアンケート結果並びに授業研修会及び指導者講習会報告を踏まえた意見交流

○令和6年度の学校における「がん教育」の推進について

- ・外部講師派遣事業を推進指定校制から希望制へ変更して実施
- ・学校保健講習会における養護教諭や保健主事等を対象にした研修の実施

② 教育委員会としての取組

■令和5年度 がん教育推進指定校授業研修会兼指導者講習会

5行政地区の各1校を推進指定校に指定し、外部講師を活用した授業の普及・啓発に取り組んだ。教育研修課の研修申込システム及び、医師会、がん患者団体に案内を出し、合計165名の参加があった。

モデル授業参観後の研修会では、外部講師、授業者、県教育委員会指導主事が講師となり、健康教育の一環としてのがん教育の推進について、研究討議を行った。

中学校	高等学校
【西濃地区】海津市立日新中学校 外部講師：大垣在宅クリニック 医師 ：がん哲学外来メディカルカフェ 代表 【中濃地区】美濃市立昭和中学校 外部講師：中部国際医療センター 医師 【飛騨地区】下呂市立竹原中学校 外部講師：高山赤十字病院 医師	【岐阜地区】岐阜県立羽島北高等学校 外部講師：岐阜大学医学部附属病院 医師 【東濃地区】岐阜県立多治見高等学校 外部講師：県立多治見病院 医師

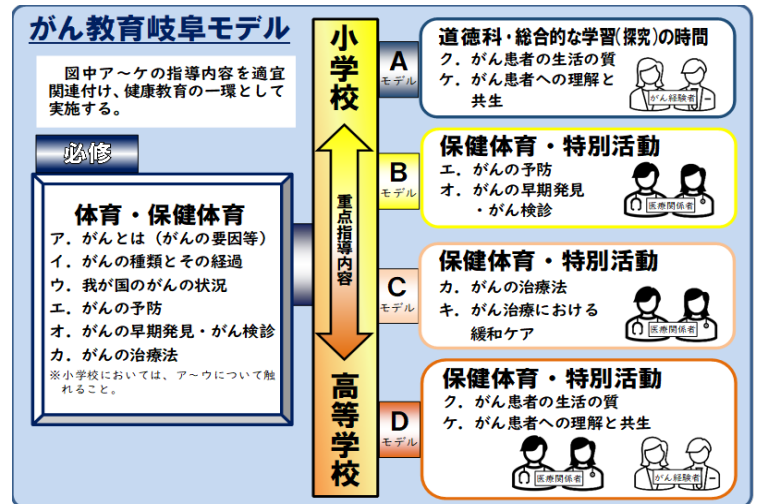
③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・県健康福祉部保健医療課に「学校におけるがん教育推進協議会」の委員に就任していただき、岐阜県がん対策の主管課として協議会で助言をいただいた。
- ・保健医療課主催の「岐阜県がん対策推進会議」に参加し、第三次岐阜県がん対策推進計画における「学校におけるがん教育」について関係機関と共通理解を図った。
- ・保健医療課から、がん診療連携拠点病院及び患者団体に対する外部講師登録を働きかけていただいた。
- ・市町村教育委員会からのがん教育講師派遣依頼に対して、受付窓口を体育健康課が担い、県医師会との調整を体育健康課、がん診療連携拠点病院及び患者団体との調整を保健医療課が行うなど、体育健康課と保健医療課で連携して対応する体制を整備した。

(2) がん教育推進指定校における取組

【内容】

- ・中学校3校、高等学校2校をがん教育推進指定校に指定し、モデル授業の公開及び授業研修会兼指導者講習会を通して、外部講師を活用したがん教育の普及・啓発を図る。
- ・①外部講師との打合せシート、②学習指導案及び指導資料をHPに掲載し、推進指定校の実践を参考にした各校でのがん教育の推進を促す。



■外部講師を活用したがん教育モデル授業

○令和5年9月21日（木） 岐阜県立多治見高等学校 保健体育

Cモデル

【目標】がんを身近な病気としてとらえ、がんとの向き合い方を考えよう。

【内容】○ディスカッション①〔個人追究⇒グループ交流⇒全体交流〕

「がん宣告されたら、どんな不安や悩みを抱えるか」

○ディスカッション②〔個人追究⇒グループ交流⇒全体交流〕

「治療を選択するうえで、何を重視したいか」

【留意点】・外部講師がディスカッションに加わり、即時評価や補足説明

をすることによって、生徒の安心や納得、新たな知識の獲得につなげられるようにした。



○令和5年10月13日（金） 下呂市立竹原中学校 保健体育

Cモデル

【目標】身近な人ががんになったとき、自分ができることを考えよう。

【内容】○ディスカッション〔グループ交流⇒全体交流⇒講師の話〕

「がんになった人に対して」「がんになった人の代わりに」

「自分自身ができること」

【留意点】・不安を助長しないように、医師による緩和ケアの具体について話を聞く。



○令和5年10月17日（火） 岐阜県立羽島北高等学校 保健体育

Dモデル

【目標】がんとの共生について考え、生活するうえで大切なことは何か考えよう。

【内容】○がん患者の立場になって生活を考える。

○がんを経験した教諭から、闘病生活との話を聞く。

○医師から、がん患者の事例やサポートの実態を学ぶ。



【留意点】・がん＝死と恐れるだけのものではなく、自身の生活で大切にしたいことと両立し、共生していくことが大切で、その備えや社会づくりが大切だと伝えた。

○令和5年11月21日（火） 美濃市立昭和中学校 保健体育

Bモデル

【目 標】自分たちのがん予防啓発の仕方や内容について、医療現場の立場で助言をいただき、考えを深めよう。

【内 容】○グループ発表

- ・紙芝居やポスター、手紙、プレゼン等で、がんの恐ろしさや原因、予防のための生活習慣の見直しや検診を受診することなどについて発表。

○講師の指導・助言



【留意点】・生徒自身もがん予防の意識を高めることができるように、がんに関する理解や、単元を通して意識の変化があったのか振り返るようにした。

○令和5年12月20日（水） 海津市立日新中学校 学級活動

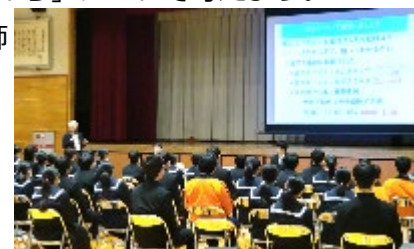
Dモデル

【目 標】「がん」に関わる人の話を聞いて、自分や家族、仲間の「いのち」について考えよう。

【内 容】○前時の学習におけるがんに関する疑問や不安に対する講師からの説明〔医師→がん経験者〕

○がんになった自分や家族のためにできそうなこと

〔個人追究⇒グループ交流⇒全体交流〕

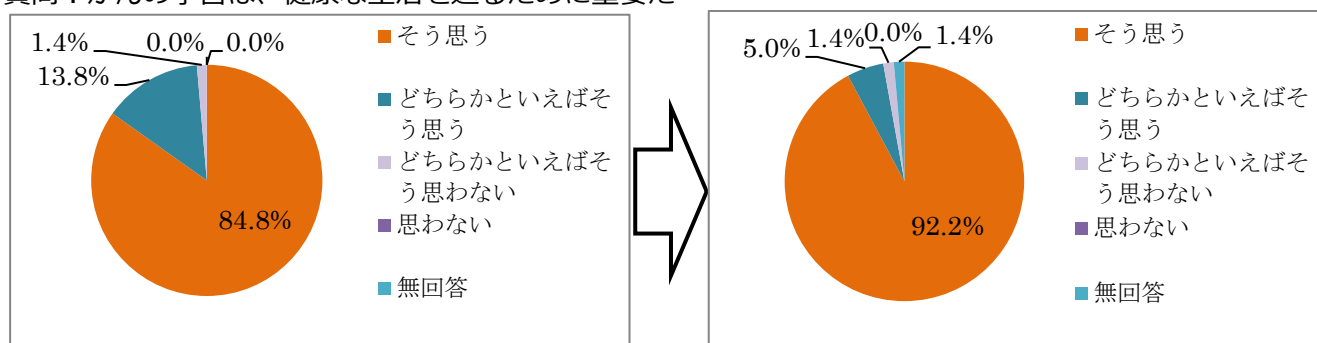


【留意点】・生徒の疑問や不安を外部講師に伝えておくことで、医師・がん経験者に期待する役割を明確にするとともに、外部講師の専門的知識や経験が生かされるようにした。

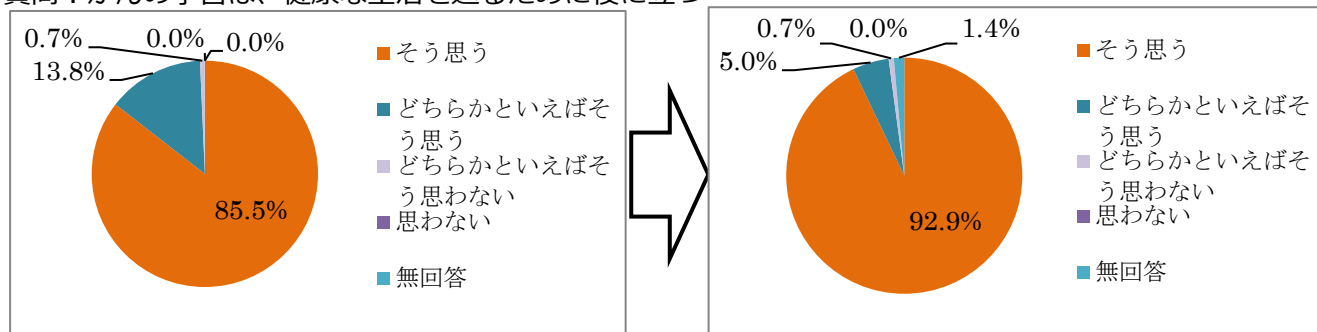
2. 事業の達成度について

（1）がん教育推進指定校 意識調査（一部抜粋） 対象：3中学校75人、2高等学校70人
推進指定校の生徒に対する事業前と事業後の意識の変容は以下のとおりである。

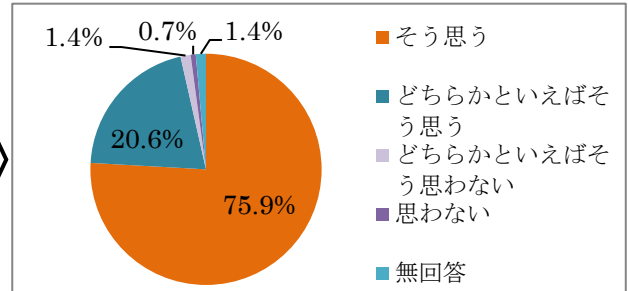
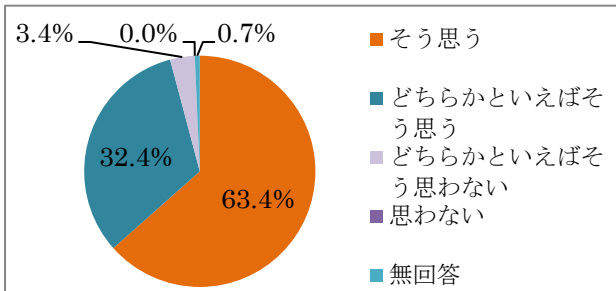
■ 質問：がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ



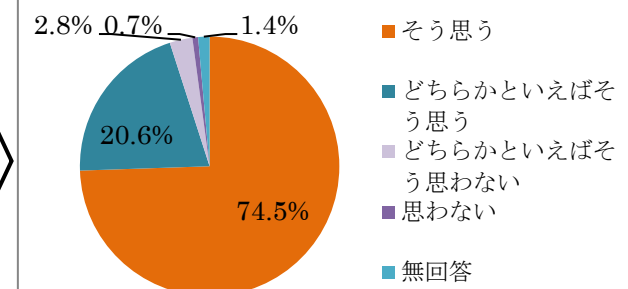
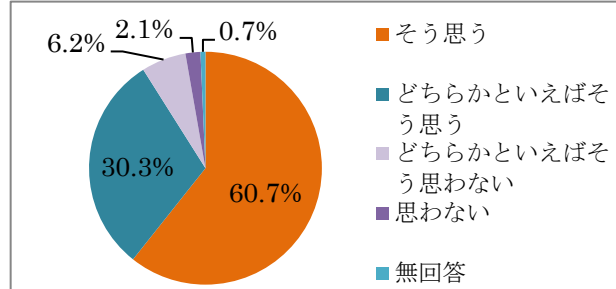
■ 質問：がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ



■ 質問：日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う



■ 質問：がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う



(2) 評価

○「がん教育岐阜モデル」として、保健体育科においてがんに関する基本的な内容を学んだあと、各学校の指導の重点を定め、外部講師を活用したプラス 1 時間の授業を実施することによって、生徒の意識の変容につなげることができた。

○既習の内容や主な学習活動、講師の役割等をまとめた「打合せシート」を活用することによって、外部講師との連携を円滑に進め、外部講師活用のよさが生かされた生徒にとって効果的な学習機会となった。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

■ 外部講師派遣事業の内容を一部変更

△外部講師を活用したがん教育の実施状況に地域差があることや、外部講師や研修会の参加者、各教育委員会担当者等から「現状の事業形式は、実態やニーズが大きく異なる市町村や学校の要望に合わない部分がある」、「学校数や児童生徒数に対して、現状の 5 校程度の直接指導ではがん教育推進に時間がかかりすぎてしまう」といった意見もあることに加え、文部科学省から市町村教育委員会においても協議会を設定して外部講師を活用したがん教育推進に努めるよう依頼があったことなどから、本事業の内容を一部変更していく必要が出てきた。

→令和 6 年度は、実態やニーズの異なる各市町村や各小・中・高等学校が、より効果的に本事業を活用できるよう、外部講師派遣を今年度までの推進指定校制から希望制に変更して実施する。

さらに、6 月～7 月に県内の全養護教諭等を招集して実施する学校保健講習会の中でもがん教育を取り上げ、地域の専門医等の講話や各校の計画交流を行う。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

■ 外部講師リストの拡充

・岐阜県医師会と連携して、新たな外部講師を発掘していく。

■ 協議会の委員を増員

・協議会に 5 行政地区教育事務所主事や市町村担当者等を新たに招集する。

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

医師 1 人（静岡県医師会副会長 専門：内科、小児科、循環器科）、がん経験者 2 人（元学校関係者）、
対がん協会事務局 1 人、患者会 1 人、行政 2 人（健康福祉部疾病対策課長、がん対策担当）、モデル校 4
人（高等学校教諭、中学校校長、小学校校長、特別支援学校養護教諭）、総合教育センター指導主事 2 人
（高等学校保健体育、中学校保健体育）、教育事務所 2 人（養護教諭）、県教育委員会事務局 4 人

2. 開催時期、検討内容

<第 1 回>

期日：令和 5 年 7 月 14 日（金）、場所：静岡県庁

内容：静岡県のがん対策、事業概要の説明、教育委員会の取組計画、活用実践校における実施計画とが
ん教育の実践紹介（外部講師としての実践、患者会としての実践）、学校におけるがん教育の現
状の共有と課題の検討

<第 2 回>

期日：令和 6 年 2 月 13 日（火）、場所：静岡県男女共同参画センターあざれあ

内容：教育委員会の事業報告、活用実践校における実践報告、成果と課題の協議、来年度の事業計画と
外部講師リストを活用した講師派遣についての協議

② 教育委員会としての取組

<がん教育の手引の発出と活用>

・がん教育の定義や学習指導要領解説での位置づけ、これまでのモデル校での実践等をまとめた『学校
におけるがん教育の手引』を作成し、県立学校及び市町教育委員会宛てに発出し、周知を図った。

<がん教育研修会（教員・外部講師合同）の開催>

目的：国・静岡県・文部科学省のがんに関する取組を理解する。外部講師を活用したがん教育に対す
る理解を深め、学校でのがん教育の充実を図る。

期日：令和 5 年 10 月 30 日（月）、場所：グランシップ 会議ホール風

内容：伝達－国と静岡県のがん対策の取組とがん教育について、講義－外部講師（がん経験者）の学

校と連携した取組、グループワーク

参加者：教員 43 人、外部講師 7 人、検討委員・事務局 3 人 合計 53 人

<がん教育授業参観会の開催>

- ・学校におけるがん教育の理解を深めるとともに、外部講師（がん経験者）の研修も兼ねて行った。

目的：学校におけるがん教育の取組の理解を深める。

期日、学校名、参加者：

ア 令和 5 年 10 月 25 日（水） 6 年 4 組 体育科（保健領域） 学校薬剤師・栄養教諭との連携

富士宮市立大富士小学校 外部講師 5 人、検討委員 4 人、合計 9 人

イ 令和 6 年 2 月 14 日（水） 高等部 1 年 保健体育科

静岡県立掛川特別支援学校 養護教諭 1 人、検討委員・事務局 2 人、合計 3 人

<がん教育外部講師研修会の開催>

目的：外部講師による学校での取組の理解を深め、がん教育の充実を図る。

期日：令和 6 年 1 月 25 日（木）、場所：静岡県庁

内容：活用実践校での取組報告、外部講師（がん経験者）による学校でのがん教育の取組報告、外部講師（がん経験者）一覧の検討、グループワーク

参加者：外部講師 10 人、検討委員・事務局 4 人 合計 14 人

<事業成果の普及>

- ・養護教諭講習会（8 月小中学校、9 月高等学校・特別支援学校）、保健主事研修会（11 月高等学校・特別支援学校）でがん教育について周知をした。保健主事研修会では令和 4 年度がん教育総合支援事業のモデル校が「がん教育実践報告」を行った。
- ・活用実践校の富士宮市立大富士小学校では、10 月 25 日に近隣の学校の教員を対象に体育科（保健領域）の授業を公開した。

<がん教育における外部講師派遣可能病院一覧の活用>

- ・令和 3 年度に作成した外部講師派遣可能病院一覧の掲載内容を更新し、県立学校及び市町教育委員会宛てに発出した。
- ・外部講師派遣可能病院一覧から外部講師派遣を希望する学校に対して県教育委員会が窓口となり、医療機関と学校を繋ぐ役割をした。（高等学校 2 校、小学校・特別支援学校各 1 校）

<がん教育における外部講師（がん経験者）一覧の活用と検討>

- ・外部講師（がん経験者）一覧から外部講師派遣を希望する学校に対して県教育委員会が窓口となり、

派遣体制作りのため、学校や市町教育委員会に発出できる一覧の作成をがん教育外部講師研修会にて検討した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

<静岡県対がん協会との連携>

- ・静岡県対がん協会が主催する「ピア・サポート研修会」にて、静岡県のがん教育の現状、外部講師の学校での取組、「学校におけるがん教育の手引」を紹介し、外部講師としての登録を依頼した。

(2) 活用実践校における取組

- ・活用実践校をこれまで高等学校、中学校各1校としていたのを、本年度より小学校、特別支援学校各1校を加えて、合計4校を指定し、学校の実情に応じた外部講師を活用したがん教育に取り組んだ。次年度の研修会にて実践報告を行うとともに、「学校におけるがん教育の手引」に実践を追記する。
- ・医療機関及びがん経験者の外部講師派遣にかかる手続きは、県教育委員会が行い、講師謝金や旅費は、本事業予算から支出した。

<静岡県立榛原高等学校>

○テーマ

- ・がんについての正しい知識を身につける。また、がんを通して様々な病気についても健康的な生活を送るようにする。健康と命の大切さについて主体的な考え、自己の在り方や生き方を考える。自他の健康と命の大切さについて学ぶ。

期日・対象	実施科目等	内容
6月下旬 (中止)	がん教育 講演会	がん教育講演会として、がん闘病者による講演「がんと闘う体育教師」を計画したが、体調不良のため中止となった。
9～10月 1年	保健体育科	教科保健「生活習慣病の予防と回復」「がん予防と回復」 ・がん教育講演会Ⅰの振り返りとがん教育講演会Ⅱの事前学習と位置付けたことで、より理解が深まった。

期日・対象	実施科目等	内容
10月12日(木)	がん教育	講演：「がんの理解とがんを防ぐ生活習慣」

全校	講演会Ⅰ	講師：焼津市立総合病院緩和ケア認定看護師と管理栄養士 ・医療者や栄養士志望の生徒の希望者を対象に座談会も行った。
10月26日（木） 1年	がん教育 講演会Ⅱ	講演：「がんという病気をどうとらえるか」 講師：藤枝市立総合病院 緩和ケア科医師 ・医療者の生徒の希望者を対象に座談会も行った。 * 1～2年には、令和4年に実施済である。
9、10、11月	保健だより	がんについての情報や知識を掲載
11月	図書の配置	「がんに関する書籍」コーナーを図書室に設置 ・がんについての専門書、小説、エッセイなどを配置

<磐田市立南部中学校>

○テーマ

- ・生活習慣病やがんの要因、予防方法などのがんの知識を身につけ、自他の健康を保持増進しようとする意識を高める。がんの予防や治療には社会の取組が有効であることを理解し、患者と共存するための方法を考えると共に、自他の命の大切さを実感し、思いやりの心を育む。

期日・対象	実施科目等	内容
7月12日（月） 1～2年	学級活動 薬学講座	学校薬剤師による講演で、たばこががんの関係について説明をした。
11月 2年	保健体育科	「がんとその予防・早期発見」 ・予防方法をグループで考え、確認し、がん予防のために自分自身や家族の生活の改善すべき課題を考えた。
12月13日（水） 2年	学級活動 がん講座	講演：「がんにつまく対応するには」 講師：磐田市立総合病院緩和医療科医師兼がん相談支援センター長 ・会議室から各教室にオンライン配信した。 ・保護者にも講演内容を知ってもらうため、講師に許可を得て、講演スライドを修正し、配信した。
7～10月	健康の日	毎月実施の「健康の日」の保健指導の中でがんを取り扱った。
7、9、10、 12月	保健だより	・がんについての情報や知識を掲載 ・12月にはがん講座の様子を掲載した。
12月	図書の配置	・学級文庫にがんに関する本や体の仕組みに関する本を配置した。

・図書室にがん教育に関する本を配置した。

<富士宮市立大富士小学校>

○テーマ

- ・がんを学ぶことを通して、健康の大切さを理解すると共にこれからの人生をより具体的に思い描くことができる。また、がんを学ぶことをきっかけにして、共生社会の担い手という広い視野で、今の自分、これからの自分にできることを考える。

期日・対象	実施科目等	内容
7月6日(木) 6年	学級活動 薬学講座	学校薬剤師、富士宮警察署員による講演で、たばこががんの関係について説明をした。

期日・対象	実施科目等	内容
7月24日(月) 教職員	校内研修	講演：「がんについての正しい理解 ～がん教育を進めるにあたって～」 講師：静岡県立静岡がんセンター副看護師長補佐 ・児童にがん遺族やがん闘病家族がいるため、がんと向き合う人々の理解を深めた。
9月8日(金) 6年	学級活動 いのちの授業	講演：「大切なあなた 大切なわたし ～命の現場から～」 講師：産婦人科医院 助産師 ・周りの人に大切にされ、成長してきたことを実感し、自己肯定感を高めるきっかけとし、将来に向けて、自分の命と周りの人の命を大切にすることを育むことを目的とした。
10月25日(水) 6年	体育科	「生活習慣病の予防 ～健康に生活するためにできることを考えよう～」(授業公開) 授業者：T1 学級担任、T2 学校薬剤師、T3 栄養教諭 ・保健の見方・考え方を働かせて学びを深めるため、考えたことを表現する時間を保障するため、ジグソー学習法を取り入れた。 ・学校薬剤師の講話を授業終末に位置づけた。
10月26日(木)	学校保健委員会	講演：「けがの予防と病気の予防 ～運動の大切さを知ろう～」

6 年		講師：整形外科クリニック 医師 ・体育科の授業で触れられなかった運動の大切さについて、楽しく運動することが、自分の命を守るために必要なことを学んだ。
12 月 7 日（木） 6 年	総合的な 学習の時間	いのちの講話：「がん経験者の講話」 講師：外部講師（がん経験者）2 人 ・がん教育の集大成と位置づけ、がん予防という保健的見方、共生社会や自己の生き方を考える道徳的見方、自身のキャリアに生かす総合的な見方を意識して聴講させた。 ・外部講師 2 人と目的の共有、内容の吟味、時間配分など綿密に打合せを行った。

<静岡県立掛川特別支援学校>

○目的

<児童生徒>

- ・適度な運動、バランスのとれた食事、十分な睡眠をとることができる。（小学部・中学部）
- ・がんについて正しく理解することができる。健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。（高等部）

<教員>

- ・がんについての正しい知識を持ち、理解して授業を行う。「掛川特別支援学校がん教育の押さえ」をもとに、小学部・中学部・高等部のがん教育の授業をする。健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。

期日・対象	実施科目等	内容
8 月 1 日（火）	校内研修	講演：「がんという病気をどうとらえるか」

期日・対象	実施科目等	内容
教職員		講師：藤枝市立総合病院 緩和ケア科医師 ・教員ががんについて正しい知識を持ち、がん教育への理解を促すために行った。
11 月 小学部知的 5 年	学級活動	「手洗いをしよう」 ・感染症の予防に大切な手洗いで、洗い残しのない手洗いをする。

			・「ばい菌スタンプ」を用い、スタンプが落ちるまで実際に手洗いを行った。
11月 中学部知的2年	保健体育科		「健康なからだづくり ～バランスの取れた食事について考えよう～」 ・3つの食品グループ図を用いて栄養バランスの良い食事の大切さを学んだ。保健主事と養護教諭のTTで行った。
12月 高等部知的2年	保健体育科		「がんと健康について考えてみよう」 ・昨年度の学習を振り返り後、がんの進行や、種類、症状について学んだ。事前アンケートで行った正誤問題を本時のまとめで確認をした。
2月 高等部知的1年	保健体育科		「がんと健康について考えてみよう」 ・がんについて正しく理解し、予防するためにどんな生活を送りたいか考える。学年主任と養護教諭のTTで行った。
12、1月	保健室前 掲示物		11月の中学部知的3年、12月の高等部知的2年で実施した授業内容の資料を掲示した。他学年の教職員や児童生徒にも授業の内容を紹介した。
2月	ほけんしつ だより		中学部知的3年、高等部知的2年の様子を掲載し、保護者に学習の様子を紹介した。
	保健給食課 通信		教員にがん教育についての情報共有をする。 ・がん教育の目的、定義、内容、「掛川特別支援学校がん教育の押さえ」の理解促進を図り、指導計画・指導カードを紹介した。

2. 事業の達成度について

(1) 教育委員会における取組

<がん教育研修会（教員・外部講師合同）の開催>

	理解できた	だいたい理解できた
1) 外部講師を活用した取組について理解できたか	44.4%	36.1%
2) 外部講師を活用した取組について考え、実践しようと	27.8%	38.9%

という意欲はわいてきたか

(感想)

- ・外部講師や実践した学校の様子を聞くことができ、イメージがわくとともに、重要性を理解できた
- ・教員自身ががんについて学びを深める必要性を感じた

<静岡県対がん協会との連携>

- ・がん経験者の登録者が増加した。(令和5年度新規登録3人)

(2) 活用実践校における取組

<児童生徒に対するアンケートのうち、数値に大きな変化のあったもの>

	事業実施前		事業実施後
1) がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ	そう思う 67.3%	→	そう思う 77.9%
2) がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ	そう思う 69.9%	→	そう思う 75.8%
3) 日頃から、バランスの良い食事や適度な運動を 行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う	そう思う 52.1%	→	そう思う 57.2%
4) がん検診を受けられる年齢になったら、検診を 受けようと思う	そう思う 52.3%	→	そう思う 61.3%

<活用実践校の成果>

- ・がんへの関心が高まり、早期発見の重要性を理解し、前向きに捉えることができた。(榛原高)
- ・がん教育の学びを深める中で、自分自身の健康を守るための具体的な方法を考えることができた。現在の食生活や運動習慣だけでなく、将来の喫煙や飲酒、がん検診などについても意識するようになった。また、がん患者との共存を意識し自分や周りの人の健康や命の大切さに気付くこともできた。(南部中)
- ・運動嫌い・野菜嫌いという実態があったが、がん教育を通して、休み時間に外に出て遊ぶ児童が増え、給食の野菜の残食が減り、健康な生活を送りたいという思いを高め、実践する力につながった。また、がん経験者の講話で、がんになっても前向きに自分らしく生きる人の姿に触れることで、「がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい」と考える児童が増えた。(大富士小)
- ・(高等部2年生徒) 昨年度に続き授業を行うことで、がんや健康について興味を持ち、知識を身に付けることができた。(教員) 校内研修における外部講師の講演により、がん教育への理解が深まった。さらに、がん教育の意義や本校でのがん教育の考え方、発達段階に合わせたがん教育の取り入れ方など、がん教育の推進に生かすことができた。(掛川特支)

3. 今後の課題及びその取組の方向性 (今回の事業により新たに見えた課題など)

(1) 活用実践校における外部講師（がん経験者）の活用した取組

- ・活用実践校においても、がん経験者の外部講師を活用した学校が少ないことから、令和5年度も本事業を活用し、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校を活用実践校においてがん経験者を活用した実践を依頼し、事例の周知を図る。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

(1) 外部講師（がん経験者）の活用の推進

- ・どの学校でも活用できるように、公表可能な外部講師（がん経験者）一覧を作成する。
- ・県健康福祉部医療局疾病対策課がん対策班、静岡県対がん協会だけでなく、他の患者団体との連携を図り、登録者数を増やす。また、登録者数を増やすために、がん教育外部講師研修会の内容を充実させ、学校における取組の理解を図り、協力を依頼する。
- ・一覧に登録されているがん経験者の派遣を行いつつ、派遣体制を整えていく。謝金や旅費等の予算の確保が学校の課題の一つであるため、本事業予算から支出をする。

(2) 「学校におけるがん教育の手引」の活用と教職員と外部講師（がん経験者）の合同研修会の充実

- ・本年度発出した「学校におけるがん教育の手引」について、静岡県のがん教育のねらいや外部講師活用の有効性等について、様々な研修会での周知を図る。
- ・教員のがんに対する理解の促進のため、外部講師派遣可能病院に協力を依頼し、講演も取り入れる。市町教育委員会担当者の参加も促して、県内全体に広がるように取り組む。

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

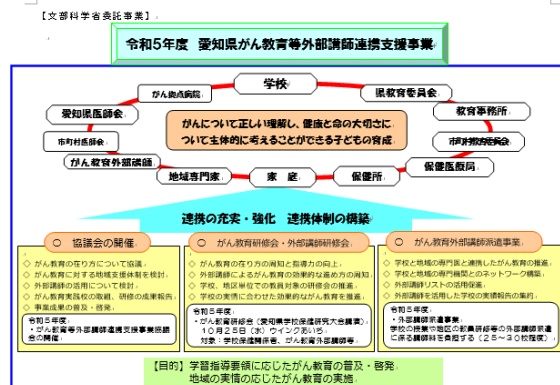
① 協議会について

1. 構成員

がん教育等外部講師連携支援事業協議会委員 15人
(内訳)

県医師会1名、がん拠点病院医師2名(緩和ケア・疫学研究)、がん患者会1名、県保健医療局1名、大学准教授1名、中学校校長1名、高等学校校長1名、中学校養護教諭1名、高等学校養護教諭1名、小中学校PTA代表1名、高等学校PTA代表1名、県教育委員会3名

2. 開催時期、検討内容



第1回協議会 令和5年7月14日(金)	第2回協議会 令和6年2月9日(金)
・事業計画及びその内容等の説明 ・県のがん教育の取組状況等の説明 ・がん教育の推進に向けての意見交換	・事業報告 ・成果と課題 ・外部講師向けの動画配信について

② 教育委員会としての取組

ア がん教育研修会

がんについての正しい知識及び理解を深め、実践につながる機会をつくり、各学校でさらに具体的な取組につなげるため、教職員、がん教育外部講師を対象にした研修会を行った。

《日 時》 令和5年10月25日(水)

《場 所》 ウィンクあいち大ホール

《講 演》 「がん教育の模擬授業と解説 ～解説編 2023～」

《講 師》 NPO 法人 がんノート 代表理事 岸田 徹 氏

《参加者》 小・中・高等学校教諭または養護教諭約300名、がん教育外部講師15名
がん教育等外部講師連携支援事業協議会委員

※愛知県学校保健研究大会講演と兼ねた

イ がん教育等外部講師派遣事業

・学校や地域の実情に応じたがん教育の推進を図るため、学校での授業や講演、地域の教員研修等に申込みのあった学校(地区)にがん教育外部講師を派遣した。

・保健医療局の協力により作成した「外部講師リスト」を県内の公立学校に周知し、活用により、地域の専門医と学校間のネットワークの構築を目指した。

《派遣事業期間》 : 令和5年8月23日～令和6年1月12日まで

《派遣先》 : 32学校(小学校21校、中学校7校、高等学校3校、特別支援学校1校)
4地区(教職員対象研修会)

ウ 研修や教材の周知、事業成果の普及・啓発

文部科学省主催の研修会や教材の周知、及び学校保健関係者等の研修の機会に前年度の事業の様子や教育委員会のウェブページに掲載していることを周知し外部講師の活用促進を図った。今後も事業成果の普及に努めていく。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

・毎年、県保健医療局から、がん診療拠点病院などに所属する医療従事者のうち、がん教育にご協力いただける医師・看護師など約140名を対象にしたリストの提供を受けており、今年度は中学校・高等学校に加え、小学校にもリストを提供した。

・県保健医療局主催の「県がん対策部会」の事務局として県教育委員会から参加し、第4期愛知県がん対策推進計画作成に関わり、「学校におけるがん教育」に関する事項について説明し、検討を行っている。

(2) モデル校における取組 (一部記載)

実施校実施日 【外部講師】	実 施 事 項
瀬戸市立品野中学校 10月27日 【医療従事者】	2年 保健講座「知っておこう、がんのこと ～大切な命を守るために～」 1か月前に保健体育の授業で学んだがんについて、医療従事者である外部講師から話を聞くことで更に理解を深めた。また、がんを身近なものとして捉え、予防のために自分は何をすべきか考える機会とした。
豊田市立竜神中学校 11月7日 【医療従事者】	全学年 学校保健委員会「がんを知り、いのちについて考えよう」 外部講師より、がんの仕組みや特徴など話を聞くことで、がんについて正しく理解し、予防につながる生活習慣や早期発見の大切さを学ぶとともに、自分や家族などの健康を考える機会とした。
稲沢市立大里東小学校 11月9日 【がん経験者】	6年 保健講座「がんについて知ろう」 「いのち」「健康」「生きる」をキーワードに、外部講師の経験談や思いを聞き、がんという病気について理解したり、生きることや家族や身近な人の大切さについて考えさせたりする機会とした。
半田市立岩滑小学校 11月10日 【医療従事者】	5・6年 学校保健委員会「がんについて知ろう」 外部講師より、がんについての基礎知識や予防、検診の大切さについて、話を聞いたことで、がんについて正しい知識をつけることをねらった。また、クイズを取り入れたことで、全員参加型の学びとなり、健康的な生活を送る生活習慣についても考える機会とした。
愛知県立古知野高等学校 11月20日 【医療従事者】	1年 特別活動 「がんについて考えよう」 がんと生活習慣は関係が深いことから、自らの生活習慣を振り返り、生涯にわたって健康に過ごす意識を高めることをねらった。定時制生徒は学校外の社会と接する機会が多いため、がん共生社会の中で生きていく上で必要な正しい知識をつける機会とした。
弥富市立大藤小学校 12月11日 【医療従事者及びがん経験者】	6年 体育「がんについて知ろう」 外部講師の医師から話を聞くことで、児童がもつ怖いイメージのがんについての基礎知識を学び、予防のための生活習慣を見直すことをねらった。また、がん経験者から実際の治療や生活の様子などについての話を聞くことで、がんを身近に捉え、自分や周りの人ががんになったらどうするか考える機会とした。
愛知県ひいらぎ特別支援学校 12月14日 【医療従事者】	中学部・高等部 保健体育「がんについて考えよう」 外部講師より、がんの進行や検診の大切さなどの話を聞くことで、がんについて正しく理解し、今後の健康的な生活について考えさせる機会とした。事前に外部講師にアンケート結果を報告し、講義内容の精選を図ったことで、より生徒の理解を深めた。
一宮市立大志小学校 12月20日 【医療従事者】	5年 総合的な学習の時間 「がんについて正しく学び、自分や大切な人のためにできることから考えよう」 外部講師と担任のTTで指導を行った。映像資料の活用によりがんについての正しい知識を学び、外部講師が関わったがん患者さんの話から、健康と命の大切さに気づかせるとともに、自己の生き方を考える機会とした。
みよし市立黒笹小学校 1月11日 【医療従事者】	6年 学校保健委員会「がんを知ろう！～がんの知識と命の大切さ～」 外部講師の医師から話を聞くことで、がんは誰でもなる可能性があることや早期発見のために検診が大切であることなどががんについて興味・関心をもたせ、がん予防に取り組む姿勢や生活習慣の大切さを考えさせた。
豊田市立五ヶ丘小学校 1月12日 【がん経験者と そのご家族】	6年 総合的な学習の時間「がんとともに生きる ～今 私にできることは～」 6年生で行う「いのちの学習」に「がん教育」を位置づけて、困難を抱えながら夢をもって力強く生きる若い外部講師の心の持ち様や生き方を通して、命の大切さや生きることの尊さ、自分のこれからの生き方について考えさせた。
豊田市立梅坪小学校 1月12日 【がん経験者】	6年 学級活動 「がんについて知ろう～がんの授業を通して健康や命の大切さを学ぼう～」 がんは誰でもかかる可能性があり、早期発見すれば治りやすい病気であることから、定期的ながん検診が重要であることに気付かせ、外部講師の生き方を通して、自分の生き方もみつめる機会とした。

(3) その他

外部講師を派遣した地区の教職員研修

実施日 【外部講師】	実 施 事 項
稲沢市養護教諭研修会 8月23日 【医療従事者】	「子どもたちと一緒に考えるがん教育について」 学校保健活動の推進者である養護教諭が、がん教育の理解を深め、実践につながるように、講義やグループワークを通じて、がんに関する正しい知識や学校でがん教育を行う際の配慮事項等について学んだ。配慮事項については、事例をもとにグループワークを行ったことで、児童生徒と保護者への対応について、具体的な言葉がけなどのイメージをもたせた。【参加人数：市内養護教諭 54 人】
名瀬地区保健体育研究大会 11月22日 【医療従事者】	「がん教育について」 実際の学校での指導の経験を踏まえながら、がん教育の基礎知識や、がんに対する考え方の変化、医療現場からのがんの実際について話を聞き、自校で行うがん教育で子どもたちに何を伝えたいのか考える機会となった。生活習慣病のひとつとして取り上げられてきた「がん」だが、確実に予防しても複合的な要素で発症するのが「がん」であることを学んだ。【参加人数：教職員 60 人】
愛知県立高等学校保健研究大会 12月8日 【がん経験者】	「がんで考える。自分の生き方やミライ。」 がんの正しい知識や命の大切さへの理解を深めることをねらいとして、外部講師より、がんの体験談や、実際の学校での指導経験や児童生徒の感想を踏まえながら、がん教育に関する効果的な授業展開や配慮事項について学んだ。また、がん体験者だから話せる治療の実際や退院後の生活などについても話を聞き、具体的なイメージをもたせた。【参加人数：教職員 231 人】
東浦町学校保健部会研修会 12月12日 【がん経験者】	「がんになったからこそ気づいたこと ありがたくない形で現れたありがたいもの」 がん患者の理解や共に生きる姿勢を育てるために大切なことを学び、自己の生き方をみつめることをねらいとし、外部講師より、がんになった時の気持ちや病気との向き合い方など話を聞き、がん体験者の生き方に触れた。また、講師が実際に学校で行ったがん教育での様子や児童生徒の感想を聞き、自校で行うがん教育を考える機会とした。【参加人数：教職員 231 人】

2. 事業の達成度について

(1) がん教育研修会

《成 果》

- ・ 県保健医療局の協力を得て、医療機関やがん患者団体へ研修会を案内し、がん教育を実践している外部講師やがん教育に関心のある方々、がん教育等外部講師連携支援事業協議会委員にも参加していただくことができた。
- ・ 効果的な指導にするための外部講師との連携やカリキュラム・マネジメント、指導上の配慮事項など、がん教育に取り組むにあたって必要な内容を網羅する形でお話していただいた。また、講師による模擬授業を行ったことで、自校での授業のイメージを膨らませ、やってみようと思える機会となった。

(2) 外部講師派遣事業

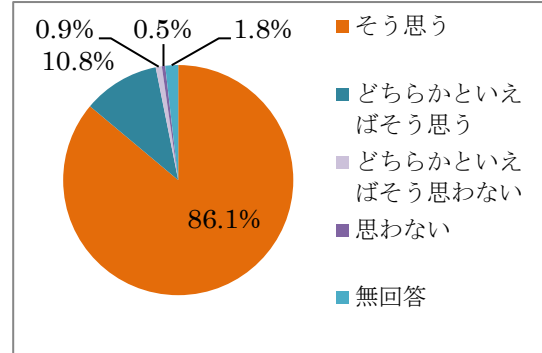
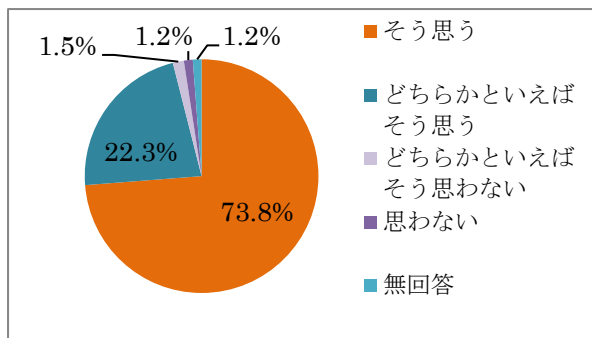
《成 果》

- ・ 毎年、県保健医療局から「外部講師リスト」の提供を受けている。外部講師一人一人に、講師の講話可能な内容（がんの基礎知識、予防・検診、緩和ケア、理解・共生、生き方体験談、保護者向け）が記載されており、今年度は「小学生向け」を追加し、中学校・高等学校だけでなく、小学校にもリストを周知した。
- ・ 本事業を利用して外部講師と連携したがん教育を実施した学校は、昨年度に比べ7校増加した。
- ・ がん教育の前後に実施したアンケートによると、「がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ」と回答した児童生徒が約73.8%から約86.1%に増加した。また、「日頃から、バランスの良い食事や運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う」が58.1%から73.7%に、「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」が55.2%から73.9%に増加した。
- ・ 児童生徒の授業後の感想には、「限りある命を大切にしようとする気持ち」や「大切な人ががんになったら自分になにができるのか」などの言葉があり、知識だけでなく、がんを自分ごととして考え、生き方を見つめる機会となった。

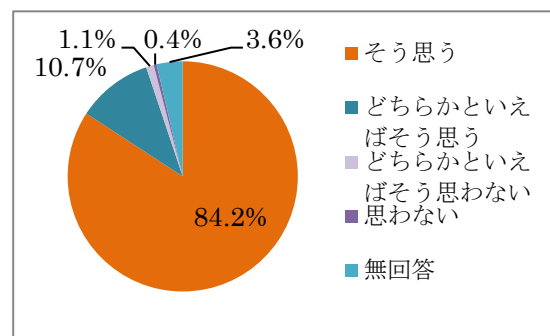
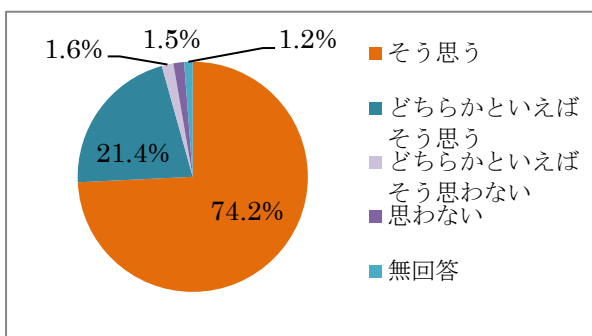
〈がん教育外部講師派遣事業 事前事後アンケート結果より〉外部講師派遣事業実施校

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ 思わない

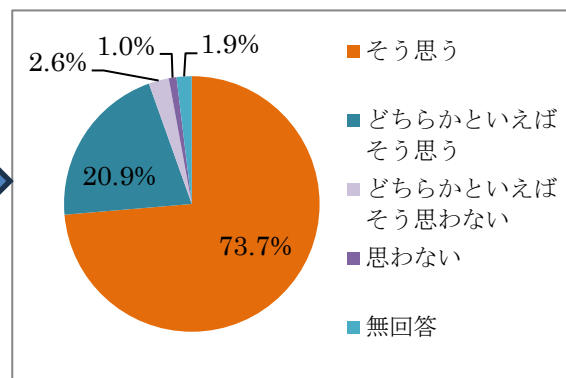
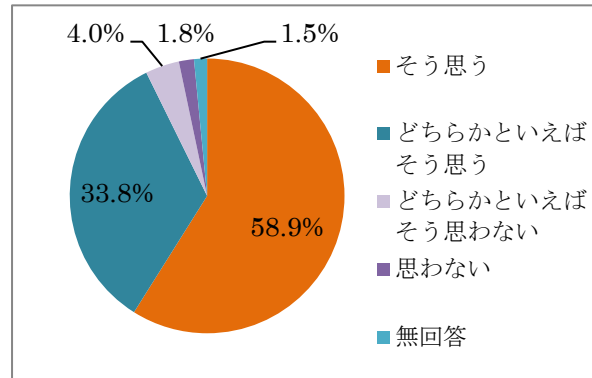
a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ



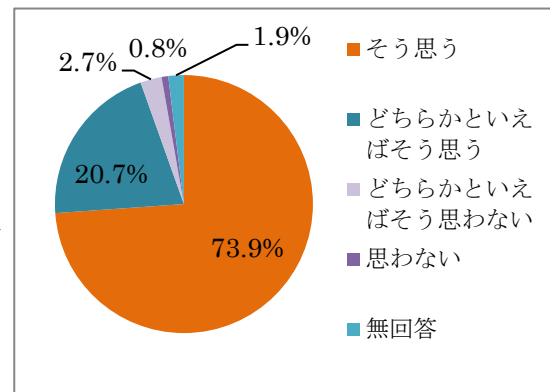
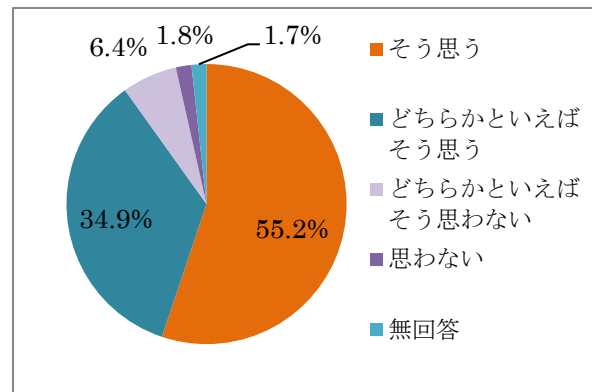
b がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ



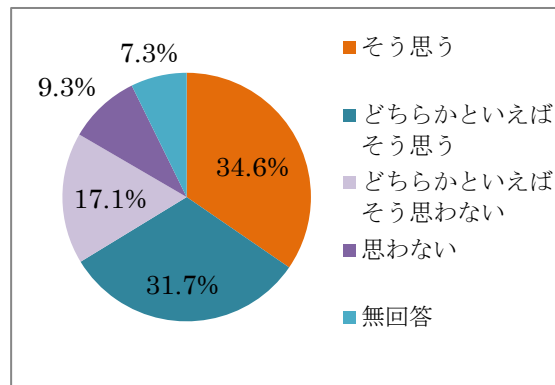
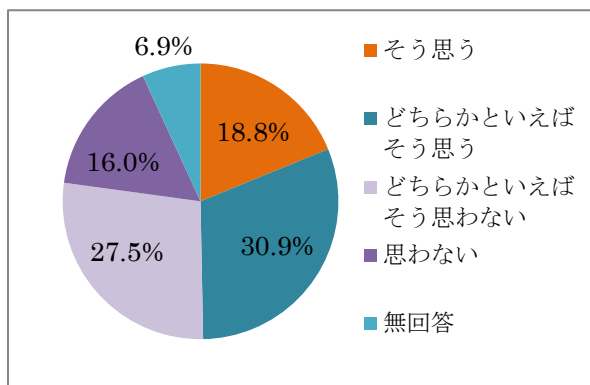
c 日頃から、バランスの良い食事や適度な運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う



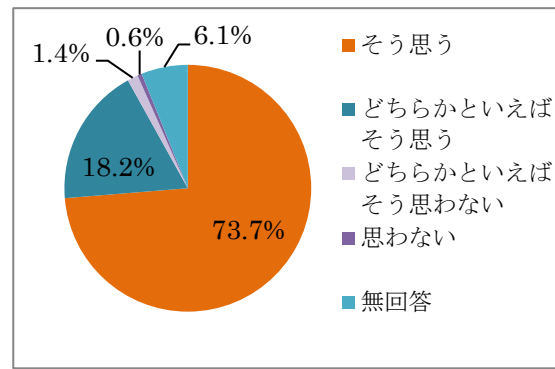
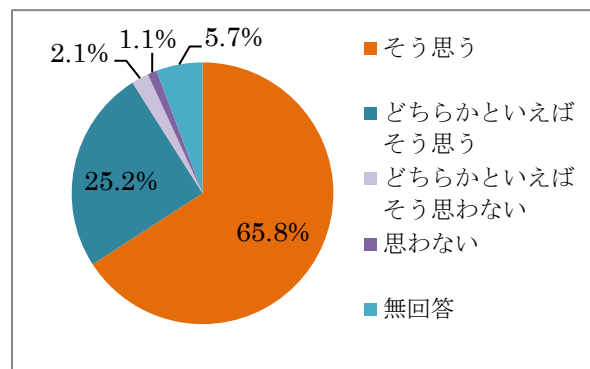
d がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う



e がんになっても生活の質を高めることができる



f がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい



3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

（1）がん教育研修会

- ・教員の働き方改革が求められる中で新たな研修を立ち上げることは難しく、今年度は愛知県学校保健研究大会と兼ねて研修会を実施した。来年度以降は、既存の研修である「学校保健講座」の4つの講義・演習のうち、一つを「がん教育」と位置づけ、研修会を実施する予定である。
- ・今後も、県保健医療局の協力を得て医療機関やがん経験者関係団体に研修会を案内し、外部講師の質の確保につながる研修を行っていく必要がある。

（2）外部講師派遣事業

- ・外部講師と連携したがん教育を実施するにあたり、効果的な指導には事前の打ち合わせや「学校におけるがん教育」についての外部講師の理解が欠かせない。そのため、学校が主体となった打ち合わせがスムーズに行えるよう、県教育委員会が作成した事前打ち合わせシートや外部講師向けの動画を周知していく。
- ・事業を利用した学校からは「行ってよかった」という報告があるが、県全体としては外部講師を活用したがん教育に取り組んでいる学校はまだ少ない。今後も研修等様々な機会を通して、実施校の成果を周知し、外部講師を活用したがん教育の推進が浸透していくよう図っていく必要がある。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・がん教育の実施率が高いが、外部講師の活用までには至っていない学校が多い。県保健医療局より提供を受けた医療関係者の「外部講師リスト」や実施校の成果などを周知し、がん教育の推進を図っていく必要がある。
- ・今年度、外部講師向けに「学校におけるがん教育」についての動画を作成した。第2回協議会で委員からいただいた意見をもとに修正を加え、令和6年7月までに完成させる。

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で 12 人（内訳：学校医代表（小児科）1 人、大学病院医師（がん専門医・小児科医）1 人、大学病院臨床心理士 1 人、がん経験者 1 人、校長 1 人、教職員 1 人、市町教育委員会 1 人、県医療保健部 1 人、県教育委員会事務局 4 人）

- ・他の組織との連携：県医療保健部、三重大学医学部附属病院をはじめとした県がん診療連携に係る病院、がん患者支援団体

2. 開催時期、検討内容

6 月 第 1 回協議会…がん教育の推進に向けた事業の検討

1 月 第 2 回協議会…がん教育の推進に関する事業の検証と次年度の展望

② 教育委員会としての取組

- ・県内教職員、外部講師（医療関係者、がん経験者等）及び行政を対象に、がん教育講習会を実施した。県作成の指導教材をもとに行うがん教育の授業の進め方や、がん教育で配慮が必要な事項について、あるいはがん患者への理解と共生についての講義をいただき、がん教育の具体的な方法を学ぶ内容とした。
- ・講習会と同様の対象で、埼玉医科大学教授の儀賀理暁氏を招聘したがん教育講演会を実施した。氏からは、がんについての知識やがん予防だけにとどまらない、いのちの大切さを学ぶ授業について、心揺さぶる体験談をもとに、教職員の視野が広がるような講演を行っていただいた。
- ・県教育委員会の作成した指導教材について、データ資料の更新や、配慮すべき表現について協議会において検討し、改訂を行った。
- ・「外部講師と取り組むがん教育授業」実施校の児童生徒に、事前事後アンケートを実施した。児童生徒や教職員の負担感の軽減のため、従来のペーパーでの手書きから、アンケートフォームでの送信に切り替えを始めた。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・県医療保健部において、県がん診療連携に係る病院及びがん患者支援団体の協力により、外部講師依頼先リストを毎年更新している。
- ・がん経験者団体の登録一覧を活用し、がん経験者である一般の方に、がん教育講習会及びがん教育講演会に案内し、6 名が参加するとともに、2 名の新規外部講師登録があった。
- ・本リストを活用して、「外部講師と取り組むがん教育授業」を、県内の小・中・高・特別支援学校に募集し、取りまとめを行った。がん教育授業の事前打合わせは、申込のあった学校、所管する教育委員会とで行い、授業のねらいや配慮すること等を確認した。確認した内容等について、県医療保健部の協力を得ながら、県教育委員会が外部講師との窓口となり、連絡して取り組んだ。
- ・医療関係者の外部講師の派遣では、医師だけでなく新たに看護師も動員され、医師とは違った視点での講義がされた。

(2) モデル校における取組

市町及び県立高等学校で応募のあった学校において、「外部講師と取り組むがん教育授業」を実施した。

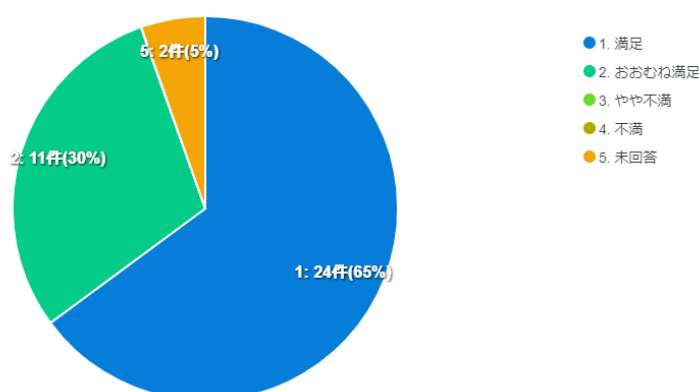
学校名	時数	教科領域	外部講師	本時のねらい
桑名市立 多度東小学校	1	保健	がん経験者	がんについて正しく理解し、健康と命の大切さについて考える。
桑名市立 精義小学校	1	総合的な 学習の時間	がん経験者	健康と命の大切さを学び、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識をもつことができる。
津市立 安濃小学校	1	総合的な 学習の時間	がん経験者	がんやがん患者に対する理解と深めるとともに、自分の生活を振り返り、健康的な生活習慣を身につけようとする意識を育成する。
津市立 黒田小学校 ※同時配信 津市立 榊原小学校	1	保健	がん経験者	保健の生活習慣病の予防の中で、喫煙や飲酒などの生活習慣ががんにかかるリスクを高めるという内容の学習を行う。実際にがんになった方から、がんと宣告された時の気持ちや、今の気持ちを伺うことで「命の大切さや今を精いっぱい生きることの意味を考える」ことをねらいとしたい。
津市立 南が丘中学校 ※同時配信 津市立 美杉中学校	1	保健体育	がん経験者	がんに関する理解と正しい知識を身につけ、がんの発生の仕方や要因と、自分でできるがんの予防には適切な生活習慣を身につけることが有効であることを理解できるようにする。また、がんやがん患者に対する偏見をなくし、自他の健康と命の大切さについて学ぶ。
津市立 西郊中学校	1	総合的な 学習の時間	がん経験者	がんという病気について、発生のメカニズムや発生意因、治療内容等を学習した上で、実際にがんの治療、闘病を経験された方のお話を伺い、がんになって考えたこと、感じたこと、またがんになる前となってからで自分の生活や気持ちで変化したこと等についてお話を聞かせていただき、がんとうがん患者さんの理解を深めるとともに、自分の生き方や命の大切さについて学ばせたい。
津市立 南郊中学校	1	保健体育	がん経験者	「がん」という言葉はよく知っていても、どんな病気なのか知らないことが大きいと思われる。早期発見の重要性や、生活習慣を身につけることが有効的な予防であることを理解するとともに、がん経験者の方から話を聴くことによって、がん患者さんに対する正しい知識や理解を深める。
伊勢市立 豊浜西小学校	1	総合的な 学習の時間	がん経験者	がんが身近な病気であることや、がんに関する基本的な知識を身につけ、自他の健康と命の大切さについて学ぶ。
県立四日市 商業高等学校	1	特別活動	医師	がんについて正しく理解し、健康と命の大切さについて考える。
県立四日市 工業高等学校	1	特別活動	看護師	国民の2人に1人はかかるといわれているがんについて、講話を通して、がんに関する基本的な知識と予防について学ぶ。
県立 鳥羽高等学校	2	特別活動	医師 看護師	健康を保持増進するためには、適切な食事、運動、休養及び睡眠などの調和のとれた健康的な生活を実践することが必要であることを理解させたい。その際、がんを取り上げ、日

				常の生活習慣、細菌・ウイルスと深い関係があることを理解できるようにさせたい。また、がんになり患しても様々な治療法や緩和ケアがあり、その社会的支援について、課題や解決の方法を思考し、話し合いをさせたい。
--	--	--	--	---



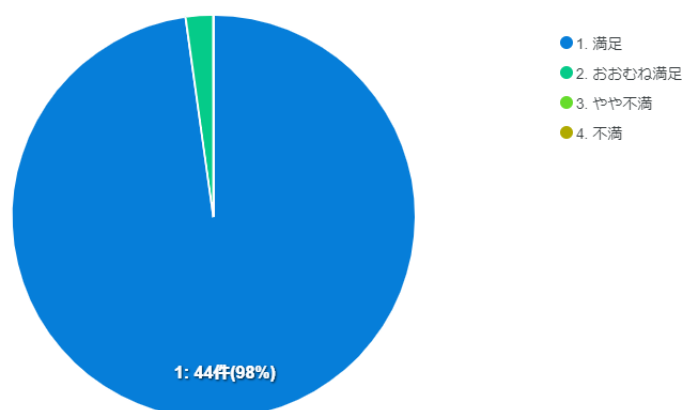
2. 事業の達成度について

- ・がん教育講習会では、教職員 25 名、外部講師及び外部講師に興味がある方 11 名、行政 2 名の計 38 名が参加した。事後アンケートでは左グラフのとおり、参加者の 95% が「満足」「おおむね満足」の回答だった。



参加者からは「実際に子どもたちにどんな授業が行われるのかよくわかりました。」「授業体験で、めあてから授業の流れ、教師のサポートの仕方がよくわかりました。」「がん患者への理解をテーマにした講義のなかで、子どもへのがんの伝え方についてわかりやすかったです。」等の声があった。

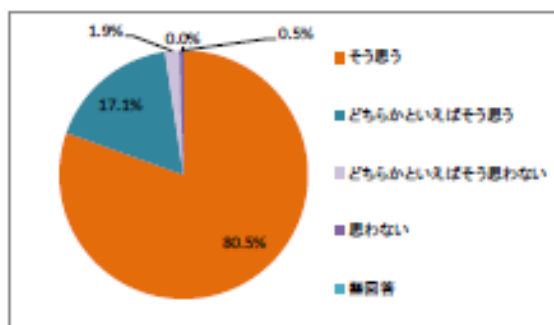
- ・がん教育講演会では、教職員 31 名、外部講師及び外部講師に興味がある方 11 名、行政 9 名の計 51 名が参加した。事後アンケートでは右グラフのとおり、参加者の 100% が「満足」「おおむね満足」の回答であった。参加者からは「いかに具体的な内容から入り、子どもたちに自分事として捉えさせることができるかが、保健領域において重要なのだと再認識する時間となりました。」「自分を語れば子どもたちは何かを感じてくれるということを儀賀先生のお話から勇気を頂きました。」「菰野町の実践報告と講演がうまくかみあって、効果的だと思いました。」等の声があった。本会は集合型での開催後、収録した動画を教職員向けに配信し、参加できなかった教職員に周知した。



- ・「外部講師と取り組むがん教育授業」について、昨年度はがん経験者による小・中学校 7 校の実施であったが、今年度はがん経験者による小・中学校 10 校、医療関係者による高等学校 3 校の実施となった。

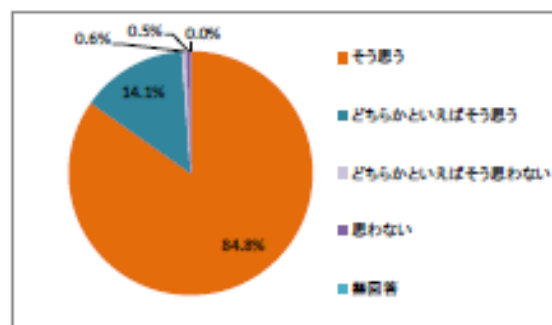
Ⅰ 生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う（事業実施前）

（単位：人）	
そう思う	776
どちらかといえばそう思う	165
どちらかといえばそう思わない	18
思わない	5
無回答	0



Ⅱ 生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う（事業実施後）

（単位：人）	
そう思う	802
どちらかといえばそう思う	133
どちらかといえばそう思わない	6
思わない	5
無回答	0



- ・「外部講師と取り組むがん教育授業」実施校の児童生徒に、事前事後アンケートを実施した。アンケートフォームでの送信に切り替えたことで、集計・グラフ化したものや感想一覧を、学校ごとにリアルタイムで用意することができた。また、授業は参集型だけでなく、オンライン授業も同時に開催し、授業中のコミュニケーションも行われた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・がん教育講習会において、県作成のがん教育教材を使用して、外部講師を招いての授業体験に好評を得ているので、次年度も継続したいが、その模擬授業については、主体的・対話的で深い学びの視点を考慮したい。
- ・がん教育講演会において、儀賀先生を招いての実践授業を公開し、参加者の研修としたい。その際「儀賀先生によるがん教育」に感心するばかりでなく、児童生徒に何を伝えるか、そのために外部講師とどのような授業をつくるか、といった授業づくりをテーマとして実施したい。
- ・外部講師の派遣については昨年度より実施校が増えたが、もっと多くの学校で外部講師を活用させたい。ただ、報償費等の負担の面から、一定の学校数までとなることが課題である。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・外部講師（がん経験者）については、今年度のように研修の機会を設け、関係団体に情報共有するなどをし、リスト団体の増員について工夫を施していきたい。
- ・研修における参加人数は、昨年度から1.5～2倍の人数を集めることができたが、がん教育を学校全体で取り組むには、より多くの教職員に周知を図りたい。

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員（16名：医師1名、大学助手1名、学識経験者1名、県保健医療部1名、県教委3人、校長4人、養護教諭4人、教職員1人）

構成員氏名	所属及び役職
中川 勝	県医師会 理事
横山 郁子	神戸薬科大学地域サテライトセンター 助手
丸山 有希	県教育委員会 学校保健技師
山根 尚	県立西神戸高等特別支援学校 (モデル校) 校長
世良 繁信	千種学園宍粟市立千種中学校 (モデル校) 校長
下段 庄司	千種学園宍粟市立千種小学校 (モデル校) 校長
石井 奈穂子	県立西神戸高等特別支援学校 (モデル校) 校長
野々口 かをり	県養護教諭研究会連盟 会長
尾上 典宏	県立長田高等学校 (モデル校) 授業担当教員
山本 美紀	千種学園宍粟市立千種中学校 (モデル校) 授業担当教員
一坪 ゆか	千種学園宍粟市立千種小学校 (モデル校) 授業担当教員
大西 利恵	県立西神戸高等特別支援学校 (モデル校) 授業担当教員
植田 勝明	県保健医療部感染症等対策室疾病対策課長
内藤 敦志	県教育委員会事務局体育保健課長
平澤 郁子	県教育委員会事務局体育保健課主任指導主事兼主幹
吉村 友弥	県教育委員会事務局体育保健課指導主事

2. 開催時期、検討内容

○第1回協議会（令和5年8月24日 兵庫県民会館）

議事（1）がん教育に関する計画（案）について

（2）がんに関する事業内容について

ア がん教育に関する協議会について

イ 講演会について

ウ 研修会について

エ アンケートについて

オ 今後の取り組みについて

カ がん教育に関する授業の実施について

○第2回協議会（令和6年2月9日 ひょうご女性交流館）

議事（1）令和5年度成果と課題について

（2）外部講師窓口リスト時点修正について

（3）令和6年度がん教育等外部講師連携支援事業について

② 教育委員会としての取組

- モデル校4校（高等学校1、中学校1、小学校1、特別支援学校1）に講師を派遣し、講演会を開催した。

※詳細は、(2) モデル校における取組に記載のため省略

○がん教育に関する教職員及び外部講師対象の研修会の開催（令和5年12月14日（木））

学校におけるがん教育において、外部講師の関わり方を充実させることにより、より効果的ながん教育の実施を図ることができるように、外部講師及び教職員、市町組合教育委員会担当者等対象に開催した。本研修会では、神戸薬科大学地域サテライトセンター助手 横山 郁子氏より、「がん教育を通して育てたい生徒の心」というテーマで講演頂いた。

また、昨年度モデル校担当者による各校の実践事例発表を実施したのちに、質疑応答を行った。参加者から多くの質問があがり、アンケート結果からも大変参考になったという声を多く頂く研修会となった。

【参加人数：178名】

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

○県保健医療部と連携し、がん診療連携拠点病院や県医師会の協力を得て、外部講師となりえる医療関係者等に対して、研修会を実施した。内容としては、神戸薬科大学地域サテライトセンター助手 横山 郁子氏より、「がん教育を通して育てたい生徒の心」というテーマでご講義頂いた。

○外部講師の連絡体制が取りやすくなるよう、県保健医療部と連携し、がん診療連携拠点病院における外部講師の窓口担当者リストの時点修正を行いHP等に掲載できるよう調整した。

(2) モデル校における取組

○令和5年9月4日 県立西神戸高等特別支援学校

講演内容は、昨年度の学習内容のおさらいとして神戸薬科大学地域サテライトセンター 横山氏に講義をしていただき、続いてがんの経験として遊育園こどもクリニック院長 楠木氏に講義を頂いた。その後、各教室にもどり、担任が中心となって振り返りを行った。振り返りながら、各生徒の感想や意見交換を行っていた。この際、各教室のフロアに、講演頂いた横山氏、楠木氏をはじめ、神戸薬科大学の学生に待機して頂き、各教室で出た質問事項や、担任の先生が答えづらい内容が出た場合に、代わりに答えて頂いた。また事前にカウンセリングマインド研修として教職員への研修も横山氏に行っていた。

【講師】神戸薬科大学地域サテライトセンター

助手 横山 郁子 氏

「がんを学ぼう！」

遊育園こどもクリニック 院長 楠木 重範 氏

「がんを経験して思ったこと」

【参加人数】全校生徒及び教職員 200名

【実施科目・授業時数】特別活動3時間

○令和5年12月1日 千種学園穴栗市立千種小学校

講演内容は、講師ご自身が小児がんによりご子息を亡くされた話から、がんの基礎知識や、命の大切さなど、がんを身近に感じることの重要性をご教示頂いた。



【講師】公益財団法人チャイルド・ケモ・サポート基金

副理事長 田村 亜紀子 氏

「いのちについて考える

小児がんの子どもをもったお母さんのお話

～だれもが暮らしやすい社会づくり～」

【参加人数】5・6年生・教職員等 50名

【実施科目・授業時数】総合的な学習の時間 1時間

○令和5年12月1日 千種学園栄栗市立千種中学校

講演内容は、講師ご自身が小児がんによりご子息を亡くされた話から、がんの基礎知識や、命の大切さなど、がんを身近に感じることの重要性をご教示頂いた。

【講師】公益財団法人チャイルド・ケモ・サポート基金

副理事長 田村 亜紀子 氏

「いのちについて考える

小児がんの子どもをもったお母さんのお話

～だれもが暮らしやすい社会づくり～」

【参加人数】中学校9年生及び教職員等 20名

【実施科目・授業時数】総合的な学習の時間 1時間



○令和5年12月18日 県立長田高等学校

講演内容は、本協議会で作成した高校生用のPPTを活用し、がんの基礎知識を教示頂いた。また、講師の専門分野である「データサイエンス」を解説頂き、データでがんの治療法等を決定するなど紹介された。またHPVワクチンについても触れていただいた。

【講師】大阪医科薬科大学医学研究支援センター

医療統計室 室長・准教授 伊藤 ゆり 氏

「データサイエンスの視点でみるがん」

【参加人数】1年生及び教職員 320名

【実施科目・授業時数】総合的な探究の時間 1時間



2. 事業の達成度について

○アンケート結果より、下記 13 項目中 13 項目が実施後、増加した。

○昨年度結果と比較すると、上記 13 項目中 10 項目（太字数値）において増加率が昨年度を上回った。これは、どの外部講師もがん教育の経験が豊富なばかりで、児童生徒に興味関心を持たせながら知識をつける実践がうまく出来た結果だと思われる。

○研修会については、教職員・外部講師を対象としたアンケート結果より、大変良かったという意見が多かった。外部講師としてがん教育の実践を多く行っている神戸薬科大学地域サテライトセンターの横山氏の「がん教育を通して育てたい生徒の心」の講義と昨年度モデル校による実践発表がともに好評であった。

	がんの学習について	実施前	実施後	増減
(1)	1) a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	84.6% (80.0)	91.6% (88.1)	+7.0 (+8.1)
	1) b がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	82.8% (74.4)	90.8% (85.5)	+8.0 (+11.1)
	がんやがん患者に対する正しい理解と認識を学ぶことができた。	実施前	実施後	増減
(2)	2) c がんは日本人の死因の第2位である。 「誤り」と答えた児童生徒の割合	61.1% (61.9)	81.1% (76.7)	+20.0 (+14.8)
	2) e 早期発見すれば、がんは治りやすい。 「正しい」と答えた児童生徒の割合	93.7% (93.4)	98.9% (99.6)	+5.2 (+6.2)
	3) e がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。 「そう思わない」と答えた児童生徒の割合	29.2% (31.9)	53.6% (44.0)	+24.4 (+12.1)
	3) f がんになっても生活の質を高めることができる。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	37.7% (27.1)	59.7% (38.0)	+22.0 (+10.9)
	3) g がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	72.6% (73.1)	85.2% (80.9)	+9.6 (+7.8)
	健康の大切さについて主体的に考えるようになった。	実施前	実施後	増減
(3)	3) a 自分はがんにならないと思う。 「そう思わない」と答えた児童生徒の割合	37.3% (34.8)	47.2% (42.6)	+9.9 (+7.8)
	3) c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	62.1% (61.5)	80.9% (77.4)	+18.8 (+15.9)
	3) d がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	56.6% (62.5)	75.1% (71.4)	+18.5 (+17.0)
	3) h がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	49.5% (45.2)	68.0% (56.3)	+18.5 (+11.1)
	3) i 家族や身近な人が健康であってほしいと思う。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	90.7% (93.8)	93.3% (95.2)	+2.6 (+1.4)
	3) j 長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	79.7% (77.8)	86.5% (84.2)	+6.8 (+6.4)

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

○アンケート結果や協議会での意見を踏まえて、以下の課題に取り組んでいく。

(1)多くの学校が外部講師を活用しやすくなるような取組を始める。（外部講師派遣事業）

(2)がん教育の県内への普及・啓発と運営方法の周知（ホームページの活用）

○モデル校の好事例について、ホームページ等を活用して公開していくことに取り組む。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

○協議会やアンケート結果から外部講師窓口リストの周知方法については、ホームページへの掲載が効果的ではないかという意見が多かったので、現在、県保健医療部を通してがん拠点病院等と調整している。また、謝金旅費・外部講師の選定について問題点が多くあがったので、来年度から県が一部費用を負担したり、外部講師の選定を支援したりするような事業を計画している。

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で12人

(内訳：学校保健技師・がん専門医・県医師会理事・小中高校長6名・県福祉医療政策部疾病対策課長・県教育委員会事務局学ぶ力はぐくみ課長・県教育委員会事務局健康・安全教育課長)

2. 開催時期、検討内容

- ・第1回推進会議(8月)：事業の推進に向けた計画の検討
- ・第2回推進会議(12月)：事業の中間報告と計画の確認
- ・第3回推進会議(2月)：事業成果の報告と検証・課題の検討

② 教育委員会としての取組

●高等学校における「外部講師を活用したがん教育」

外部講師を活用したがん教育の普及啓発のため、令和3年度～5年度の間に県内の全公立高等学校でのがん教育講演会の実施を計画し、令和5年度は高等学校14校で「がん教育講演会」を実施した。

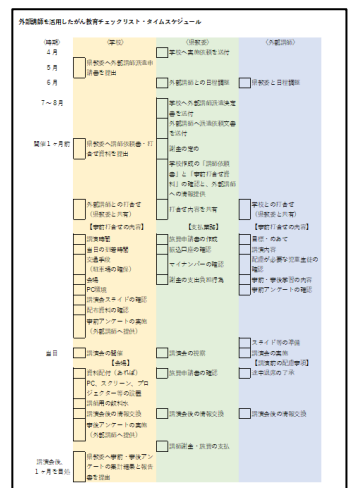


講師派遣にあたっては、事前打合せシートを活用することで必要な情報が共有できるように工夫したため、学校からの要望や講演会のめあて、事前事後指導の内容などを外部講師や県教委担当者と確認しながら打合せを進めることができた。

また、「チェックシート・タイムスケジュール」を作成し、外部講師派遣決定通知と共に学校へ配布したので、当日までのスケジュールや必要な準備物等をそれぞれ確認することができ、円滑に実施することができた。

●外部講師の確保と外部講師向け研修会

外部講師の確保については、すでに外部講師を務めていただいている医師やがん看護専門看護師から紹介をいただいたり、県教委の事業を知った方から協力したいとの申し出があったりと、年々、協力者が増えている。本年度は、初めて協力いただく外部講師が多数おられたため、外部講師向けがん教育研修会を開催し、文部科学省が提示しているがん教育ガイドライン等の内容や奈良県のがん教育の方向性等について説明を行った。

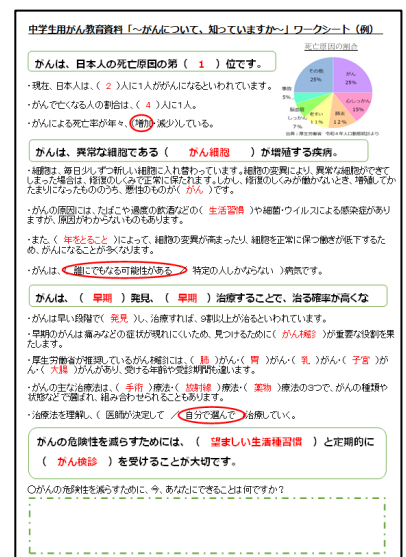
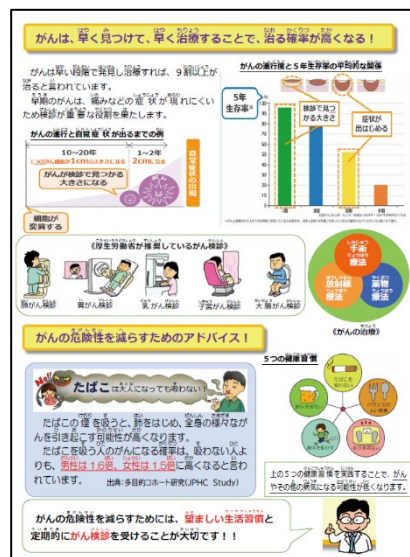


●高等学校向けがん教育教材の作成

文部科学省作成の中学校・高等学校向けがん教育教材（モジュール）を参考にして指導内容をノートに加えることで、がんの知識に不安のある教職員であっても、がんを正しく伝えることができるような教材を作成し、令和6年度以降の活用に向けて周知した。

●中学校におけるがん教育

学習指導要領に合わせた中学生向けがん教育リーフレットを作成し、県内公立中学校（2年生）を対象に各学校へ配布し、「体育（保健）」の授業での活用を推進した。また、リーフレットの内容に合わせたワークシートを作成し、より深い学びとなるよう工夫している。



●小学校におけるがん教育

小学生向けがん教育リーフレットを作成し、「10月10日奈良県がんと向き合う日」に合わせて、県内公立小学校（6年生）を対象に各学校へ配布し、がん教育の実施と家族へのがん検診の啓発を行った。（奈良県のがん対策推進計画の取組と合わせて実施）

リーフレットを配布する際には、指導の流れや配慮事項について記載している「活用例」を同封し、教職員が指導する際の困り事に対応できるように工夫している。

10月10日は何の日？

「自の健康デー」ですが、奈良県では「奈良県がん教育の日」に定められています。それは……

奈良県教育委員会 2023

10月10日 奈良県がん向き合ひ日

みなさんは、『がん』という病気を聞いたことがあると思います。知らない病気や怖い病気だと思っている人、自分はがんにかからないと思っている人もいます。がんについての正しい知識を学び、自分ができることや大人になってからできることを考えてみましょう！

日本人はどれくらいのがんになるのでしょうか？

がんになる人の割合は、(②)人に1人
がんで亡くなる人の割合は、(④)人に1人

年齢別がんになる人の割合

がんは、たばこやお酒などの生活習慣が関係している場合もありますが、がんの原因はよく分かっていないことが多く、誰でもなる可能性があります。

がんから身を守るためにはよい生活習慣とがん検診

あなた大切な人ががんにならないために、今日行ったことをおうちのの人に伝えよう！

小学生用「がん教育リーフレット」活用例

日本人のがんによる死亡率は、昭和56年より死亡原因の第1位になっており、それ以降も増加傾向にあります。

国のがん対策基本法(平成19年4月施行)を受け、奈良県では、平成21年10月に「奈良県がん対策推進条例」が施行されました。その中に「奈良県がん向き合ひ日」は、10月10日とする。や「がん教育の推進」が定められています。

奈良県では平成26年度より、がん教育を推進しており、小・中・高等学校における系統立てた取組の一環として、小学生に「がん」に対する興味・関心をもってもらうことを目的としています。

【導入】10月10日と言えば「自の健康デー」を思い浮かべる人が多いのではないでしょうか？しかし、奈良県では独自に「ある日」として定めています。みなさんは何の日か分かりますか？実は、奈良県では10月10日を「奈良県がん向き合ひ日」と定めています。そこで、今日が「がん」という病気について考えてみます。

【発問1】みなさんは、「がん」という病気に対して、どのようなイメージを持っていますか。
※～発問予想～「死ぬ病気」「かからない」「怖い病気」に近いイメージ。

【発問2】日本ではどれくらいのがんになるのでしょうか？
予想してきましょう。(リーフレットに予想した人数を書くように指示する。)

※発問が予想した人数を発表し合います。

【解説1】日本人では、2人に1人ががんになり、4人に1人ががんで亡くなっています。
※日本人、日本人の死亡原因の第1位である。円グラフ「死亡原因の割合」を参照して、4人に1人ががんで亡くなっていることを児童に確認する。

【解説2】がんの原因には、たばこやお酒などの生活習慣が関係している場合もありますが、よく分かっていないことが多く、誰でもなる可能性があります。

【解説3】このように、がんは誰でもなる可能性があります。グラフ「年齢別がんになる人の割合」を見ると、年齢があるにつれて、少しずつがんになる人が増えていき、50歳前後から特に増えていることが分かります。

ためには、どんな方法があると思いますか。

よく食べる/たばこを吸わない/等。

いために、よい生活習慣が大切です。をせずバランスよく食べること、適度に運動すること、です。

習慣によってなる可能性が低くなります。

習慣についての説明を行う。

習慣病予防につながり、肺をはじめ全身の様々ながんになります。

比べて、男性は1.5倍、女性は1.6倍であることも分かります。

つけることができれば9割以上が治るものがあります。

などの症状が出ていくにつれて、早く発見することが大切めには、「がん検診」が必要です。「がん検診」では、腫瘍に反応した検査により、自分では気づかない小さな異常病の症状が出ていても医師さんに診てもらったことが大

治らない病気だと思っているかも知れませんが、検診治療すれば治る確率が高くなると思われます。まなつて、がんやその他の病気になる可能性を低くしま

定について考え、出来ることを実践していきましょう。

たり、腫瘍の方がいる場合の対応等について

保健者と学習内容について相談し、場合によっては、に配慮するなど、気持ちに寄り添って対応する。が関わっていることがあるが、その原因については明るため、「がんにかからない」=「イコール」生活習慣に注意する。

病気であり、誰にでもかかる可能性があるが、早期発見が多い病気である。そのため、大人になった時にがんが検診でわかることが大切である。」という主旨

●がん教育研修会（教職員・外部講師対象）

がん教育の目的や指導する際の配慮事項等について御講演いただくとともに、高等学校向けがん教育教材の活用方法について周知していただいた。また、県衛生主管部局（疾病対策課）の事業「20歳未満の者の喫煙防止対策事業」と共催し、喫煙防止教育についても講演をいただいた。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

今年度のがん教育研修会では、上記のとおり、県衛生主管部局の事業と合同開催を行ったため、参加者の中に市町村の保健センターのがん教育担当者や保健師等がおられ、がん教育の取組に興味を持っていただくことができた。今後は、地域のがん教育の取組と協力することも可能であると感じた。

(2) モデル校における取組

「外部講師を活用したがん教育」を中学校へ拡大するため、宇陀市立大宇陀中学校にモデル校として協力いただき、外部講師による中学生向けのがん教育の内容や、保健体育科教員による主体的・対話的・深い学びとなるがん教育について研究した。

大宇陀中学校では、「体育（保健）」の授業と特別活動の時間を組み合わせて、2時間のがん教育を実施した。外部講師との事前打合せの前に県教委担当者と協議し、前半の1時間を外部講師によるがん教育講演会、後半の1時間を保健体育科教員によるグループワークの時間として、グループワークの時間には、生徒が発言する機会を多く持てるよう工夫した。

外部講師によるがん教育講演会については、教科書や発達段階に応じた内容としていただき、事前に講演会資料を大宇陀中学校（校長・保健体育科教員）と県教委担当者が確認し、理解が難しい語句の言い換えなどを外部講師にお願いした。

保健体育科教員によるグループワークの時間では、外部講師によるがん教育講演会の内容を受けて、「がんの原因」や「がんの予防」についてブレインストーミングを行い、グループ毎に発表し、担当教員が上手くまとめることで講演会の内容を振り返りながら学習の定着を図った。外部講師には2時間目にも参加していただき、生徒から出た間違った意見や難しい質問に対応していただいた。

モデル校での事前事後アンケートの結果からは、がん教育の効果を感じることができたが、中学校においてがん教育に2時間を確保することが難しいため、今後は1時間で行うがん教育についても研究していく予定であり、その成果については県中学校保健体育研究会において発表する計画である。



2. 事業の達成度について

目標 1 「小学生向けにがん教育リーフレットを作成し、発達段階に応じたがん教育を実施すると共に、家庭へ持ち帰ることで家庭や地域へのがん検診の啓発を目指す。」

令和 5 年度がん教育の取組状況調査（県独自調査、令和 5 年 1 2 月実施）において、がん教育リーフレットを配布した小学校は 89.9%であり、リーフレットを活用した保健指導を実施していた小学校は、72.3%であった。リーフレットを配布するだけに留まっている学校は少なからずあるが、事業を継続することで認知度は上がっており、リーフレットによるがん教育は浸透してきていると考える。

目標 2 「がん検診の適齢に最も近い高校生に向けては、令和 3 年から 5 年までの 3 年間に全公立高等学校において外部講師を活用したがん教育を実施する。」

令和 5 年度は、県内 14 校の高等学校に対して外部講師を派遣し、がん教育講演会を開催した。これにより、この 3 年間で県内全ての県立高等学校に外部講師を派遣することができた。外部講師によるがん教育講演会を開催することで、その効果を実感し、継続した外部講師派遣を希望する学校が増えている。また、がん教育を担当する保健体育科教員の資質向上に繋がったとの感想があった。

外部講師派遣については、派遣申請の様式や事前打合せシート、外部講師派遣までの役割（学校・外部講師・県教委）が分かるようなチェックシートを活用することでスムーズ終えることができた。

目標 3 「今後の外部講師派遣の拡大に向けて、外部講師の人材を確保する。」

令和 5 年度は、奈良県がん教育外部講師リストに「がん専門医」だけでなく、「がん看護専門看護師」を加えることで、11 人（令和 4 年度）から 15 人に増員することができた。また、奈良県のがん治療拠点病院の医師等や全国がん患者連合会の協力が得られ、令和 6 年度は 21 人に増員することが決定している。

また、人材の確保だけでなく、外部講師向け研修会を開催し、文部科学省が提示しているがん教育ガイドライン等の内容や奈良県のがん教育の方向性等について説明したことで、学校によってがん教育の内容や方向性に大きな差が生じずに進めることができた。

目標 4 「学習指導要領の内容に沿った教材を開発し、ICT を活用したがん教育の充実を図る。」

学習指導要領に合わせた中学生向けがん教育リーフレットを作成・配布し、「体育（保健）」の授業での活用を推進した。リーフレットの内容に合わせたワークシートを作成し、より深い学びとなるよう工夫している。年々、がん教育リーフレットを活用している中学校が増えてきており、今後はワークシートについても内容を更新し、より活用しやすいものとしたい。

【県内中学校の 95.1%がリーフレットを配布。72.8%中学校がリーフレットを活用した保健指導を実施。】

また、文部科学省作成の中学校・高等学校向けがん教育教材（モジュール）を参考にして指導内容をノートに加えることで、がんの知識に不安のある教職員であっても、がんを正しく伝えることができるような教材を作成し、令和 6 年度以降の活用に向けて周知した。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

当初の計画とおり、本年度までの3年間で県内全ての県立高等学校に対して外部講師派遣を実施することができた。「外部講師を活用したがん教育」の効果について周知することができ、継続して外部講師派遣を希望する学校が増え、保健体育科教員からは「資質向上に繋がった」という感想をいただき、一定の成果を上げたと感じている。令和6年度以降は、外部講師派遣を中学校へ拡大するとともに、計画的な派遣ではなく学校からの要望に応じて派遣する形へ移行するため、多くの学校で活用していただけるか不安な面もある。今後は、がん教育推進委員の方や各種研究会を通じて、がん教育の取組について広く周知する必要があると考えている。

また、令和4年度の課題として、身近にがん患者がいる場合などで、がん教育に対して不安を感じていたり、児童生徒からの質問が専門的で回答に困る場合などに、がん専門医に相談することができる仕組み（プラットフォーム）を構築し、がん教育後のフォローができる体制を整え、安心してがん教育に取り組むことができるようにしたいと考えていたが、人的支援が必要であるため支援事業を活用する手段を検討したい。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

外部講師派遣、がん教育リーフレット、がん教育教材など、様々な取組を進める中で、その都度、周知する形で進めていると年間計画に位置づけることができず、がん教育の実施が難しいとの声があった。そのため、次年度は「(仮) 奈良県がん教育の手引き」を作成し、がん教育が年間計画に位置づけられるよう、また、がん教育教材や外部講師派遣の手順などがすぐに分かるよう、教職員の手引きとなるものを作成したいと考えている。

その他、地域保健センター（保健師等）と繋がりを持ったり、がん教育講演会にPTAを招くなど、地域のがん教育の推進に繋げることも必要であると考えている。

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で17人

内訳：がん専門医（臨床腫瘍科）1人、県学校医会（小児科）1人、がん患者連絡協議会1人、県連合小学校長会1人、県中学校長会1人、県立学校長会1人、県学校保健主事研究会1人、県養護教諭研究会1人、モデル校担当教員3人、健康局健康推進課1人、生涯学習局スポーツ課2人、学校教育局教育支援課3人（事務局2人含む）

2. 開催時期、検討内容

【第1回協議会】

・日 程：令和5年8月3日

・内 容：和歌山県がん教育総合支援事業について説明し、がん専門医、学校医、がん患者、健康局健康推進課、学校関係者等で外部講師を活用したがん教育推進のための事業計画について協議した。

【第2回協議会】

・日 程：令和6年2月8日

・内 容：令和5年度の事業内容について報告するとともに、事業内容等に関する評価を行った。各委員からは、それぞれの立場による意見をいただくとともに、本事業の充実を図るため、外部講師のリストに関わることや次年度の計画（案）についても協議した。

② 教育委員会としての取組

○普及・啓発

教職員及び外部講師を対象に本県におけるがんの状況並びにがん教育の実施状況、がん教育推進に係る法的根拠、学習指導要領との関連、外部講師依頼時の要点、モデル校での実践例について説明を行った。

また、がん専門医による講演では、文部科学省の教材を活用した外部講師によるがん教育の推進について啓発した。

実施時期	実施内容	対 象	備 考
1月16日	がん教育研修会（説明①、説明②、講演）	教職員・外部講師	参加者41名
1月26日	がん教育研修会（説明①、説明②、講演）	教職員・外部講師	参加者43名

【説明①】演題：「本県のがんの状況について」

講師：和歌山県福祉保健部健康局健康推進課がん・疾病対策班 主査 吉村 浩信 氏

【説明②】演題：「がん教育について」

和歌山県教育庁学校教育局教育支援課健康教育・食育班 指導主事 田代 裕人

【講演】演題：「がんについて知っておくべきこと」

講師：公立那賀病院 臨床腫瘍科 科長 上田 弘樹 氏

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・がん教育総合支援事業協議会に委員として出席を依頼し、本県のがんの状況について各委員へ説明
- ・本県のがんの状況を研修会で教職員及び外部講師に説明
- ・健康教育の一環として外部講師を活用したがん教育の充実を図ることを本県がん対策推進計画に掲載
- ・外部講師を確保するため、健康推進課と連携し、がん診療連携拠点病院へ協力依頼
- ・和歌山県医師会や和歌山県がん患者連絡協議会等と連携を図り、外部講師リストの運用方法の協議

(2) モデル校における取組

○那智勝浦町立宇久井小学校

テーマ：「がんを予防するために、これから気を付けることを考える」

日 程：令和5年11月9日

講 師：南和歌山医療センター 統括診療部 部長 横山 省三 氏

対 象：6年生 22名

内 容：文部科学省作成の教材を活用し、外部講師から日本におけるがんの状況及びがんの予防について講義を行った。その後、「がんを予防するために、これから気を付けること」をテーマにグループワークを行い、学びを深めた。

その他：近隣の小学校に授業周知を行い、2名が参加した。授業の参観だけではなく、意見交換会を実施し、外部講師を活用したがん教育の推進を図ることができた。また、宇久井小学校の学校開放週間に授業を実施し、保護者も参観できるように取り組んだ。



○田辺市立上秋津中学校

テーマ：「がん治療に必要な支援はなんだろう？」

日 程：令和5年11月29日

講 師：和歌山県がん患者連絡協議会 会長 岡本 久子 氏

対 象：2年生 24名

内 容：外部講師の話へ円滑に移行するために、担当教員からがんに関する事前学習のふりかえりを行った。外部講師からは、実体験や思いをお話しいただいた。その後、がん患者への接し方をテーマにグループワークを行い、生徒が主体的に接し方を考えていた。

その他：近隣中学校に授業周知を行い、管理職及び保健体育科教員、養護教諭14名が参加した。授業の参観だけではなく、意見交換会を実施し、外部講師を活用したがん教育の推進を図ることができた。



○和歌山県立有田中央高等学校清水分校

テーマ：「わたしたちはがんに対してどう向き合うべきか」

日 程：令和5年12月14日

講 師：学校医 中村 嘉典 氏

対 象：全学年（1年生2名、3年生1名）

内 容：文部科学省作成の教材を参考に講義を実施した。一方的な講義ではなく、外部講師が生徒へ質問したり、考えを促したりするなど講義内容を工夫し取り組んだ。



○和歌山県立箕島高等学校

テーマ：「がんという病気」

日 程：令和5年12月21日

講 師：学校医 中村 吉伸 氏

対 象：1年生 85名

内 容：文部科学省作成の教材を参考に講義中心で実施した。外部講師から発言を求められた際には、意



見を発表することができた。

その他：学校医、保健主事、養護教諭が連携し、授業内容を考え、取り組むことができた。

○和歌山県立南部高等学校

テーマ：「自分たちができるがん患者への接し方を考える」

日 程：令和6年1月11日

講 師：紀南病院 副院長 山邊 和生 氏

対 象：1年生 109名

内 容：文部科学省作成の教材を活用し、がんという病気やがん患者の思い、がん患者と共に生きる社会について講義を実施した。講義後、「自分たちができるがん患者への接し方」をテーマにグループワークを行い、活発な話し合いが行われ、生徒一人ひとりが考えを深めていた。

その他：学校側と協議の上、各種報道機関へ資料提供を行った。テレビや新聞で外部講師を活用したがん教育のモデル授業の様子を報道することで、地域社会へ和歌山県のがん教育の取組を発信することができた。



○和歌山市立日進中学校

テーマ：「がん 今の状況と予防について」

日 程：令和6年1月24日

講 師：公立那賀病院 臨床腫瘍科 科長 上田 弘樹 氏

対 象：3年生 176名

内 容：文部科学省作成の教材をもとに、講義及びグループワークを実施した。がんの状況と予防について外部講師からの講義の後、「がんを予防するために、どのように日常生活を送ればよいか」をテーマにグループワークを実施し、生徒が考えを深めていた。

その他：近隣中学校に授業周知を行い、6名が参加した。授業の参観だけでなく、意見交換会を実施し、外部講師を活用したがん教育の推進を図ることができた。また、前向きに、外部講師を活用したがん教育を行いたいという意見があった。



○まとめ

授業内容を考える際に、学校側が打合せシートを作成することで、学校が主体となり授業を計画することができた。さらに、作成した打合せシートもとに、外部講師とオンライン会議やメールで連絡を取り、スムーズに話し合いを行うことができた。

また、授業実施前に、お便りで保護者へ授業内容について説明を行い、授業に対する質問の有無について確認をとったり、復習として、学級担任が授業を行ったりするなど担当者だけでなく、学校全体で取り組むことができた。引き続き、学校教育活動全体をとおして、がん教育を実施していきたい。

そして、グループワークでは、発表して終わりではなく、その発表に対して生徒同士で質問やアドバイスをする場面が見られ、他者の意見から、自分の考えをさらに深めることができた。その様子を目の当たりにし、グループワークの重要性を再認識することができた。今後も、グループワークを取り入れ、主体的・対話的ながん教育を県内に推進していく。

2. 事業の達成度について

○協議会の果たす役割についての評価

協議会においては、がん専門医や学校医、がん患者、健康局健康推進課、学校関係者に委員として参加し、外部講師のリスト作成、外部講師を活用した効果的ながん教育の在り方、グループワークについて検討することができた。前年度までのがん教育の取組状況等を踏まえて協議を行ったことにより、児童生徒の理解を促すための効果的な指導方法として、グループワークを取り入れること、がんが身近な問題と認識してもらえるよう、県内のがんの状況を指導内容とすること等の意見が得られ、和歌山県における外部講師を活用した効果的ながん教育の在り方を検討することができた。

○がん教育研修会についての評価

研修会については、関係機関にも開催要項を周知したことで、学校関係者だけではなく、がん患者や市町村の保健師、がん診療連携拠点病院の医療従事者等、たくさんの職種の方に参加いただいた。外部講師を活用する際のポイントやモデル校の取組、グループワークの必要性等を紹介することで、参加者から外部講師を活用したがん教育に前向きに取り組んでいきたいという意見が得られた。

また、研修会の参加者に記述式の事後アンケートを実施し、意見や感想等を集計した。

【健康推進課及び教育支援課による説明】

本県のがん患者数や受診率等の状況を教材として活用することで、児童生徒が身近にがんを感じることができ、効果的であるという意見が得られた。また、学習指導要領の内容を理解し、発達の段階に応じた指導を行うことが重要という意見も得られた。

一方、外部講師を活用しがん教育を推進していく大切さを理解しているものの、教職員の負担が増えるのではないかという意見もあった。負担感なく、取り組める方法を今後検討していく必要がある。

【がん専門医による講演】

文部科学省の教材を活用し、がん専門医からがんに関する専門的な知識をわかりやすく説明していただいたため、参加者自身ががんについて正しく理解することができた。

また、実際に指導する際のポイントについても丁寧にお話ししていただいたため、学校での指導に対する理解も深まった。

○外部講師リストに関する評価

外部講師リストについては、今年度がん診療連携拠点病院6か所に外部講師としての協力依頼を行い、協力の了承を得た。その後、開催した研修会で、各市町村教育委員会担当者等に対して、がん診療連携拠点病院のリストの周知を行った。

また、学校医のリストを最新版に変更するため、県医師会と連携し、会員へ外部講師の登録の協力依頼を行う。

引き続き、関係機関と連携し、外部講師のリストの充実を図っていきたい。

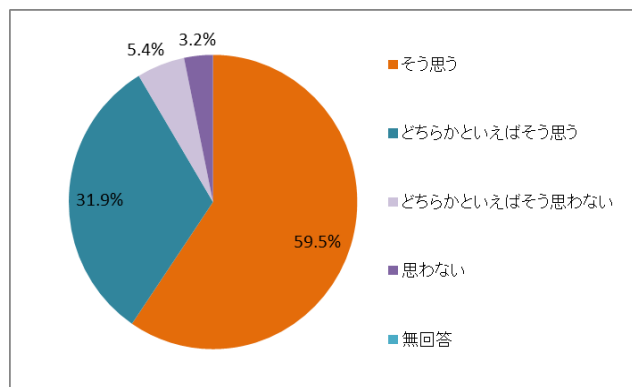
○モデル校における評価

外部講師を活用したがん教育の授業内容は学校が主体となり計画する。学校側が計画しやすいように、「打合わせシート」を活用している。作成した「打合わせシート」を活用し、事前打合わせを行うことで効率的に行うことができた。また、学校側の負担軽減につながるという意見もあった。

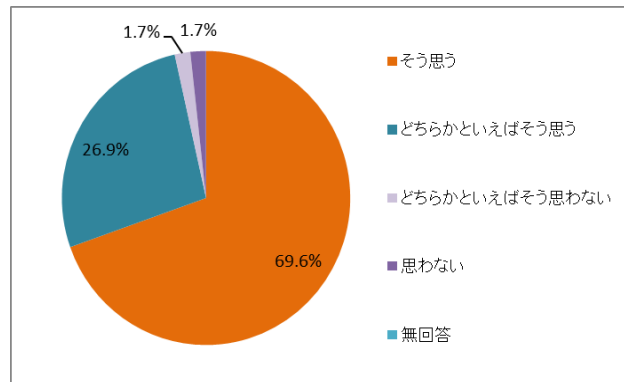
和歌山県においてはがん検診受診率が低いことを踏まえ、事前事後アンケートの項目のうち、「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」について比較したところ、受けようと思う児童生徒の割合が増えた。(図1参照)

【がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（図 1）】

○事前



○事後



3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・研修会の参加者は養護教諭や養護助教諭が多かった。外部講師を活用したがん教育を実施するためには、管理職の理解が必要不可欠である。また、保健主事が中心となり、各学校が作成する学校保健計画に外部講師を活用したがん教育を記載することで、各学校で外部講師を活用したがん教育が計画的に行われると考えている。そのため、管理職や保健主事に参加を呼び掛けていきたい。
- ・学校側の負担軽減のため、打合せシートの紹介や外部講師を活用したがん教育の授業展開例の作成が必要である。
- ・作成した外部講師のリストのよりよい運用方法の検討が必要であるとする。
- ・文部科学省が作成した教材だけではなく、児童生徒がより身近なこととして捉えられるよう、和歌山県のがんに関するデータを授業で活用できるよう検討が必要である。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・外部講師を活用することにより、がんについて正しく理解し、健康に関する意識が高まるなどの指導効果が見られることから、引き続きモデル校の授業周知及びモデル校の取組紹介を行っていく。
- ・「外部講師のリストがあれば活用しやすい」という意見が、研修会の事後アンケートにあった。関係機関と連携を図りながら外部講師のリストの充実、運営方法を検討していきたい。
- ・今年度は、グループワークに力を入れ、モデル校で授業を実施してきた。グループワークを取り入れることで、児童生徒が主体的にがんについて考えることができた。また、外部講師の講義内容の理解が深まった。
- ・事業全体を通して、関係機関と連携を図りながら、和歌山県における外部講師を活用したがん教育が少しずつ軌道にのり始めている。今後も継続して事業を推進していきたいとする。

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

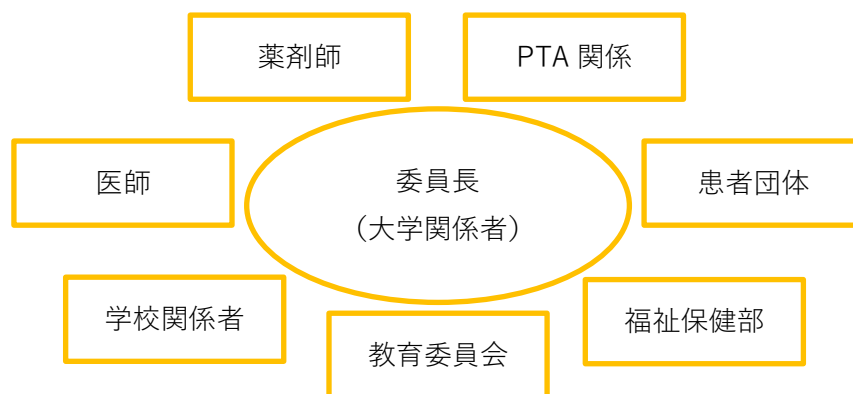
1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員（計19名）

大学教授1名、医師（内科医）1名、薬剤師1名、がん患者団体1名、
PTA（中、高等学校）代表2名、校長（小、中、高等学校、特別支援学校）4名、
保健体育主事部会代表1名、養護教諭部会代表1名、県福祉保健部健康政策課1名、
教育委員会事務局6名



2. 開催時期、検討内容

○第1回がん教育推進協議会 令和5年7月20日（木）

【報告】・令和4年度がん教育推進事業 ・令和4年度出張がん予防教室

【説明】・令和5年度がん教育等外部講師連携支援事業の計画

・令和5年度出張がん予防教室の計画

【協議】・学校におけるがん教育推進について

○第2回がん教育推進協議会 令和6年2月8日（木）

【報告】・令和5年度がん教育等外部講師連携支援事業 ・令和5年度出張がん予防教室

【説明】・令和6年度がん教育等外部講師連携支援事業の計画

・令和6年度出張がん予防教室の計画

【協議】・令和6年度の事業実施に向けたがん教育の充実について

② 教育委員会としての取組

○がん教育啓発研修会の開催 令和5年10月12日（木）

学校においてより効果的ながん教育が実施されるよう、指導内容の充実と教職員等の正しい理解を図ることを目的に、県外から講師を招き、研修会を開催した。

<啓発研修会の内容>

（1）説 明 「学校におけるがん教育の推進に向けて」

鳥取県教育委員会事務局体育保健課

（2）講 演 「学校における保健教育とがん教育」

新潟医療福祉大学 健康科学部健康スポーツ学科 教授 杉崎 弘周 氏

(3) 実践発表 「がん教育の実践～外部講師としての関わりを通して～」

がんの不安に寄り添う「がんのコト。」 代表 平尾 敦子 氏

○がん教育公開授業及び講演会の開催

県内で2校（中学校1校、高等学校1校）を推進校とし、外部講師を活用した授業公開及び講演会を開催し、がん教育実践を県内に発信した。

<参加対象者>

小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校の教職員、がん教育外部講師、医療関係者、市町村（学校組合）教育委員会の健康教育担当者等

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

○県福祉保健部との連携

- ・県福祉保健部が主催する「出張がん予防教室」を各学校へ周知し、啓発研修会で紹介した。
- ・「出張がん予防教室」の外部講師と県教育委員会の外部講師リストを共有した。
- ・学校での取り組み等を情報共有し、がん教育推進について協議した。

(2) モデル校における取組

① 鳥取県立青谷高等学校 令和5年11月14日（火）

<取組の内容>

- (1) 公開授業 科目保健「がんの原因と予防」
- (2) 講演会 「健康と命の大切さ～がんと共に生きる私から～」
医療法人養和会 看護師 松本 みゆき 氏

【主な内容】

がんの現状（死亡者数、死亡率の推移など）、がん発見の経緯や気持ち、周りの支え、がんの治療、緩和ケア、寄り添い方、がんの仲間とのつながり、現在の活動について 等



まず、学級において科目保健の「がんの原因と予防」について学習した後、学年全体（1年生）で外部講師による講演を行った。学校側の「健康や命の大切さ」を中心とした話をしていただきたいという要望から、看護師として働きながら、御自身もがんサバイバーである松本氏に外部講師を依頼し、事前に授業内容や講演内容、生徒の状況等について打合せを行った。

講演会では、自身ががん経験者であるということ、がんの専門的な知識に加えて、がん患者や家族の気持ち、生活の変化や願い、自身の生き方等について御講演いただいた。

② 鳥取市立湖東中学校 令和5年12月8日（金）

<取組の内容>

- (1) 公開授業 保健体育「生活習慣病などの予防（がんの予防）」
- (2) 講演会 「がんについて正しく知ろう！～看護師として伝えたいこと～」
がんの不安に寄り添う「がんのコト。」 代表 平尾 敦子 氏

【主な内容】

がんという病気、がんの原因、がんの予防、がんの治療、がん患者についてのエピソード 等



まず、保健体育の「生活習慣病などの予防（がんの予防）」の授業において、生徒が事前にかんについて調べた内容をグループごとに発表した。その際、外部講師である平尾氏がT2として参加し、生徒の発表した内容について助言や新しい情報の追加等を行った。また、授業中に生徒から出た質問に回答するなど、生徒と対話しながら授業を展開した。

講演会では、看護師としての立場から、がんの専門的な知識やがん患者及びその家族の気持ち等について実際のエピソードを交えながら、健康や命の大切さについて御講演いただいた。

2. 事業の達成度について

(1) 外部講師の活用体制の整備

学校が外部講師を活用したがん教育に取り組みやすいよう、県事業である「出張がん予防教室」の外部講師と県教育委員会の外部講師リストを共有した。実際に「出張がん予防教室」を活用し、公開授業で外部講師として関わっていただいた平尾氏の派遣を依頼する学校が複数あった。

(2) 外部講師及び教職員に対するがん教育啓発研修会の開催

＜参加者＞ 計 35 名

小学校 5 名 中学校 15 名 義務教育学校 2 名 高等学校 10 名 特別支援学校 1 名 その他 2 名

＜アンケート結果＞ 回答者 30 名

- ・ 満足した 23 名 (76.7%)
- ・ 概ね満足した 7 名 (23.3%)
- ・ あまり満足できなかった 0 名 (0.0%)
- ・ 満足できなかった 0 名 (0.0%)

＜参加者の感想（一部抜粋）＞

- ・ がんの知識や実際のがん教育の進め方が具体的に分かり、実践してみたいと思いました。
- ・ がん教育の最先端の情報を学ぶことが出来て、とても良い機会だったと感じました。自校でも今日学んだ内容を踏まえて、打ち合わせをしたり、内容を検討したりしたいと思いました。
- ・ 実際にかん教育を実践しておられる方の経験談を聞くことができ、がん教育の重要性を再認識する良い機会となった。
- ・ がん教育の必要性を感じていても、いざ取り組むとなると難しいと感じていたが、今日の研修で学んだことから、まず実践できそうなところをやっていきなさいと思った。
- ・ 厚生労働省の基本計画から文部科学省の学習指導要領へつながっていることを理解しました。また、子どもたちから正しい知識をもち、自らの生活習慣や予防につなげ、大切な家族へ発信することで健康、命の大切さにつながっていることを実感しました。
- ・ がん教育の必要性・がん教育の実践を学ぶことができた。常々どのような内容のがん教育講演会をされているのか実態を知らなかったこともあり、大変充実した研修でした。
- ・ がんという病気が怖いという印象は変わらないが、治療で治る病気であるということやがん検診が大切であるということを知ることができた。



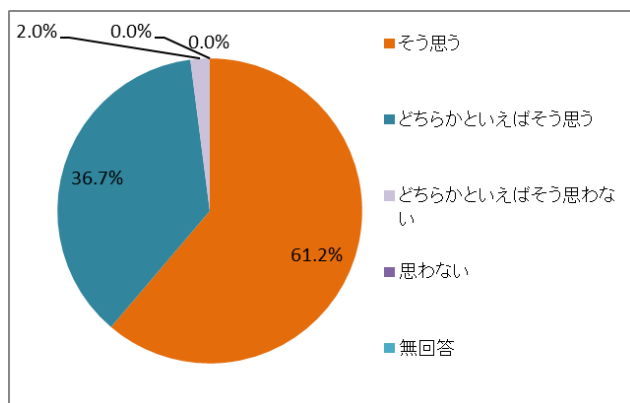
(3) がん教育公開授業及び講演会の開催

授業及び講演会の実施前と実施後のアンケート結果（一部抜粋）を比較すると以下の結果となり、がん教育の重要性やがん検診に対する意識の高まりが見られた。また、事後の感想には、学習したがんについての知識に加え、命や健康について考えた内容やがん患者に対する気持ちの変化等の内容が多く見られた。

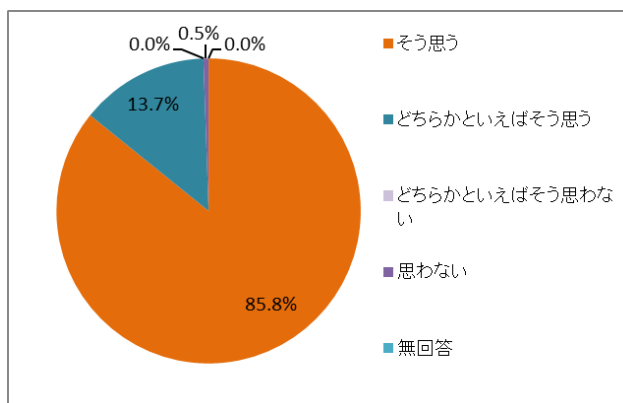
<事前・事後アンケートの結果>

Q. がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。

【実施前】

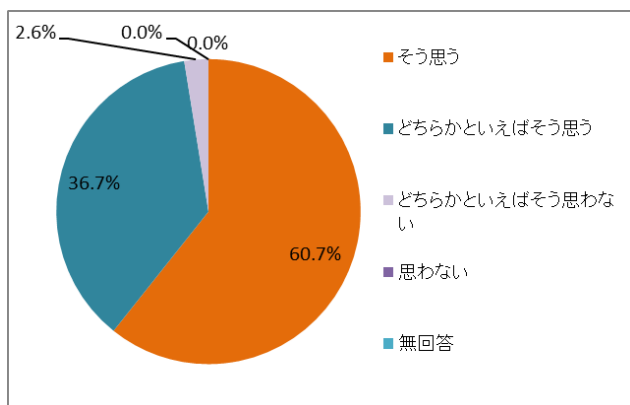


【実施後】

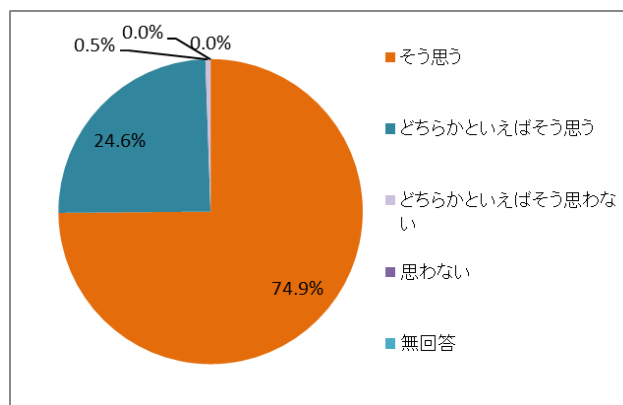


Q. がんになっている人にも過ごしやすい世の中にしたい。

【実施前】



【実施後】



<生徒の感想（一部抜粋）>

- ・講演会を聞いて、今自分にできることはたくさんあると知ることができたので、一つでも取り組んでみようと思いました。
- ・がんは自分に関係ないことではなく、身近にあることであって、自分にも起こる病気だから、今自分ができることを考えて行動することが大切だと思いました。
- ・自分になった場合についても色々と詳しく教えてもらってとても勉強になりました。
- ・がんになってしまったら悩み事を抱えずに相談したいです。そして自分の行動次第で変えることができると分かったので、日々頑張りたいです。
- ・がんと診断されて暗い気持ちになっていた時に周りに支えてくれる人がたくさんいるというのはもし何かあった時に安心して頼ることができると思いました。
- ・がんになった方の話を初めて聞いて、がんを治すことの大変さとか、そういう方への寄り添い方を聞いたので良い経験になったと思いました。
- ・私は、がんと共に生きることができる社会になるには一人一人の理解が必要だと分かりました。
- ・先生のお話やがん患者さんのエピソードから、がんになっても治療していけば治すことができるということや、必ずしも入院しないといけないわけではなく、通院しながら普通どおりに生活したり、その後も元気に生活できるということが分かりました。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- 啓発研修会の参加者や推進校の授業担当者は、がん教育の重要性や外部講師を活用することのメリットを感じているが、全ての学校に広がっているわけではない。がん教育は体育・保健体育の授業内で完結するものではないため、全職員共通理解のもと、特別活動や特別の教科道徳等と関連付けながら、学校の教育活動全体を通じて行うという意識を持って取り組めるよう、引き続き研修会や公開授業等を開催し、普及啓発を図っていく。
- 医療機関やがん患者団体と連携しながら、外部講師リストの充実を図る。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- がん対策推進計画や学習指導要領に基づいたがん教育が推進できるように研修会等で周知するとともに、全ての学校で充実した取組が行えるように国の方向性や推進校の取組、教材を紹介する。
- がん教育啓発研修会への参加については、例年、参加者の多くは養護教諭であり、それ以外は少数であるとともに、年々減少傾向にある。体育・保健体育科教諭にがんについての正しい知識や効果的な学習方法を学んでもらい、養護教諭と連携し、校内に広めてもらえるように参加を呼び掛けるとともに、オンデマンド配信を検討するなど、参加者の拡大に努めたい。